

ヲ釀サント策動シ居レルヤニ觀察セラル之等ノ取締ニ付テハ當館警察ニ於テ全力ヲ盡シ居ル次第ナルカ現在ノ人員ニテハ非常ナル手不足ニ付最少限度二十名大至急増員方御詮議願度ク何分ノ儀御回示ヲ請フ

支、天津ニ轉電セリ

(欄外記入)

天津ヨリノ電稟ヲ俟ツテ措置スルコトニ岩崎領事ト話スミ

二月十二日

474 昭和7年2月11日

在中国重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

在留民の越軌行動取締りの要は早期処置にあ

りとの北平への注意喚起について

上海 2月11日後発
本省 2月11日後着

第一六九號(極秘)

本使發北平宛電報第七號

貴官發大臣宛電報第七七號ニ關シ

五 上海事變關係

推ス時ハ今後當分ノ間沙市ニハ警備艦ヲ置カサルモノト察セラルルニ付當館ハ如何スヘキヤト問合セ有之タルカ右命令ハ恐ラク海軍側ニ於テ在支公使及在上海總領事ト打合濟ノ結果ナルヘシトハ被存レタルモ右ニ關シ當館トシテハ未タ何等ノ通知乃至訓令ニ接シ居ラサリシ關係モアリ假令一時タリトモ國旗ヲ下シ閉館スルコトハ輕々ニ之ヲ行フヘキニアラス且ツ昨今沙市ニ於ケル排日ハ稍下火トナリ居リ熊々引揚ヲ要スル程ノ情勢ニハ無之モ去リトテ之ヲ客年滿州事變發生當時ニ於ケル排日風潮ノ急劇ナル惡化ニ徴スルトキハ今後警備艦去レル後排日ヲ職業トスル無賴不逞ノ徒輩ノ使族^(族)ニヨリ無智ノ徒ニ於テ何時如何ナル端緒ヨリ排日的越軌行動ニ出スルヤモ計ラレスト認メタル一方萬一沙市ニ於テ事端ヲ惹越セハ漢口ヲ中心トスル上流一帯ノ大局ニ面白カラサル影響ヲ及ホスカ如キコトモ懸念セラレタル處御承知ノ通り當館館員トシテハ本官ノ外ニ巡查一名アルノミニシテ管内在留邦人トシテハ我軍艦ニ對シ食料品賣込ヲ專業トスル鮮人一名ニ過キサル關係モアリ斯ル際館員ノ手不足ニ因リ萬一重要書類等ヲ奪取セラルルカ如キコトモアラハ由々數大事ナルヘシトモ被存レタルヲ以テ旁々當館

在留民ノ越軌行動取締ハ當地ノ經驗ニ顧ミルモ早目ニ目星シキモノニ對シ退去ヲ命スル等容赦無キ態度ヲ示スニ非サレハ此ノ上機ヲ遷延スルニ從ヒ取扱困難トナルヘシ右ノ點御手配ノ御參考迄

外務大臣、天津へ轉電セリ

475 昭和7年2月11日

在沙市浦和領事館事務代理より
芳沢外務大臣宛

沙市領事館の漢口への引揚げについて

機密第一八號

(2月24日接受)

昭和七年二月十一日

在沙市(漢口滞在中)

領事館事務代理 浦和 四郎(印)

外務大臣 芳澤 謙吉殿

時局ノ爲一時漢口ヘ引揚方ニ關シ報告ノ件

本件ニ關シテハ在漢口坂根總領事發閣下宛電報第九一號ニ依リ大要既ニ御承知ノコトト被存ル處二月二日午前七時頃沙市警備艦鳥羽艦長ヨリ同艦ハ命ニヨリ急遽宜昌ニ向フコトトナリタルカ右命令中「領事便乘差支ナシ」トアルヨリ

ノ引揚ハ警備艦ノ離港ト前後シテ大至急決行ヲ要シ經何ノ違ナカリシ爲臨機ノ措置トシテ海軍無線經由在漢口坂根總領事ノ指示ヲ仰キタル上公私財産ノ處理ヲ了シ同日上航ノ日清汽船信陽丸ニ乗込ミ宜昌ヲ經テ(宜昌經由トセルハ信陽丸ハ相當日子間宜昌ニ停船スルコトナキヤヲ顧慮シタルニ因ル)一時漢口ヘ引揚ケタル次第ナルニ付事情御諒察ノ上右御承認相仰度シ

尙公私財産ノ處理方ニ關シテハ左記ノ通り取計ヒ夫々之カ保全方ニ關シ萬遺漏ナキヲ期シ置ケリ即チ

一、當館建物並物品

官有物品ハ出來ル限り取纏メ漢口ニ携帯シ椅子机、金庫、食器類ノ如キ量張り又ハ急速取纏メ難キモノ及雜具類ハ建物内ニ收容シ別紙寫ノ如キ目錄ニ沙市公安局長宛公文ヲ添ヘ同局員(本局員及當館所在地方面ヲ管轄スル第五分局長其他四名)立會點檢ノ上之ヲ引渡シ其ノ保管方ノ約諾ヲ取付ケタリ

領事館建物ハ公安局長宛公文ヲ以テ之カ保全ノ責任ヲ負ハシムルコトトシ右物品點檢ノ際立會ノ上鎖錠ヲ施シ鍵ハ公安局長ニ寄託シ建物及其ノ内部所藏品ノ保全方ニ付

全責任ヲ負ハシメタリ公文書全部並書籍及印刷物ノ重要ト認ムヘキモノハ取纏メ漢口ヘ携行セリ
電灯用發動機並附屬品ハ英支合辦ノ Pressing Cotton Company 支配人英國人(機械技師)ニ保管ヲ託シ預證ヲ徴シ置ケリ

ニ、在留民ノ遺留財産

在留民ノ遺留財産トシテハ日清汽船會社(家具、ハルク及其ノ附屬物)日華洋行(家具及倉庫)、瀛華洋行(家具ノミ)吉田洋行(建物(倉庫ヲ含ム)及家具)ノ四會社ノ財産ノミニシテ右ハ全部客年十月當館ニ於テ認證セル殘留財産目錄ニ基キ前項同斷公安局ニ保管方依頼シテ其ノ約諾ヲ取付タリ(在留民ノ殘留財産目錄並ニ之カ保管方ニ關スル公安局長宛公文寫ハ添付ヲ省略ス)

右報告旁此段引揚措置御承認方稟請申進ス

本信寫送付先、

公使、漢口、南京、

(別紙)

昭和七年二月二日

駐沙日本領事官 浦和 四郎

沙市公安總局長 任友梅殿

敬啓陳者今回滿洲ニ於テ貴我兩國間ニ發生セル不詳事件^(釋カ)ノ為メ已ムヲ得ス在留日本人ヲ率キテ離沙スルコト、相成タルハ本領事ノ衷心遺憾ニ堪ヘサル處ニ有之候就テハ事件解決後本領事再度駐沙ノ期迄敝領事館家屋及家具其他一切ノ附屬物ニ就キ貴局長ニ於テ最善ノ保護相成ハ勿論當地當該官憲ヲシテ等シク責任ヲ以テ右保護相成様御取計相成度別紙目錄^(省カ)相添此段申進候 敬具

目錄一通添付

476

昭和7年2月12日

在漢口坂根總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

九江における事端発生防止のため日本軍艦々長と九江警備司令の会見方取計について

漢口 2月12日前発

本省 2月12日後着

第一〇二號

九江發本官宛電報

第一五號

本官發支宛電報

第一一號

大臣へ轉電アリ度シ

第一三號

在留邦人當地引揚ノ報市内ニ喧傳セラルルヤ早くモ日本軍艦ハ在留民ヲ引揚ケシメ然ル後支那街ヲ砲撃スヘシトノ謠言流布セラレ市民等動搖シ始メタル次第ハ往電第一二號(四)報告ノ通ナルカ本朝ニ至リ昨夜入港ノ保津勢多二砲艦ヲ見タル支那人ハ恰モ本日砲撃セラルルモノノ如ク考ヘ頗ル興奮セリ一方本邦人側ハ支那軍カ日本軍ニ對抗スル爲市内外數哩ニ亘リ砲列ヲ敷キ堤防ヲ築造中ナリトノ謠言ヲ聞キ之亦頗ル動搖セリ依テ小官ハ直ニ日本軍艦ヲ往訪シ日本側ヨリ斷シテ發砲セサルコトトシ尠クトモ當地ニ於テハ事件ヲ發生セシムルカ如キコトナキ様御互ニ最善ヲ盡スヘキ旨ノ申合ヲナシ置キ其足ニテ當地警備司令ヲ往訪支那側ニ於テ發砲セサル限り日本側ヨリ發砲スルカ如キコト斷シテナカハヘキ旨ヲ述ヘ更ニ砲列及堤防構築ノ件ニ關シ實否ヲ質シタル處右ハ單ナル謠言ニ過キストノコトナリシヲ以テ時節

柄謠言ノ百出ハ無理ナラサル次第ナルモ双方共興奮スル狀態ニアリ昨今此種謠言ヲ嚴重取締ラサルニ於テハ如何ナル突發事件出來スルヤモ計ラレサルニ付嚴ニ取締ラレ度シト申入タル處警備司令ハ稍安堵ノ面持ニテ此上共一層取締ヲ勵行スヘシト述ヘタルカ本日午後二至ルモ何等砲撃ノ模様

ナク且本邦人モ未タ引揚居ラサルヲ知り市面稍平靜トナリ本邦人側モ亦鎮靜トナレリ尙小官ハ此ノ際日本軍艦長ト警備司令ト會見シ隔意ナキ意見ヲ交換スルコト時宜ニ適スト認メタルヲ以テ双方ニ話合ノ上明日小官艦長三名ヲ案内シ警備司令ヲ往訪スルコトナレリ
漢口、南京、長沙、宜昌へ轉電セリ

477

昭和7年2月13日

在青島川越總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

上京の委員などの言辭が居留民の盲動を助長する恐れあり対応につき注意要請について

青島 2月13日前発

本省 2月13日前着

第三七號(部外極秘)

貴電合第四六〇號ニ關シ

當方ニ於テハ屢次御訓令ノ趣旨ニ從ヒ事件發生防止ノ爲支那當局者ヲ督勵シテ嚴重治安維持ニ當ラシムルト共ニ居留邦人ノ盲動取締ニ萬全ヲ盡シツツアル次第ニテ目下支那側ニ於テハ自己^(己カ)ノ立場保持上極度ニ事件ノ發生ヲ虞レ最モ嚴重ナル警戒ヲ行ヒツツアリ從テ支那側ヨリ事端ヲ醸スカ如キ事ハ當地ノ關スル限り萬ナカルヘシト思考セラルル處他方當地在留邦人ハ御承知ノ通久シキニ亘ル軍政時代ト前後二同ノ出兵ノ經驗ニ依リ軍力ニ賴ルコト甚タシク又出兵ニ依リ思ハサル利得ヲ收メタルモノモアル關係上此等ノ連中ハ自己ノ利害關係上出兵ヲ希望シ甚タシキニ至リテハ青島ヲ還元^(華府會議以前ノ狀態ニ復スヘシトノ主張)ヲ夢見ルモノスラ鮮カラス從テ當地方面ノ問題ハ主トシテ此等無識短見ノ徒ノ策動取締ニ存スヘキナリ

然ルニ之等徒輩ノ策動ニ最モ影響ヲ與フルモノハ軍部ノ意向ニシテ殊ニ上京委員等カ軍部要路者ノ直話ナリトテ齎ラス對支強硬論ノ如キハ前記情勢ヲ助長スル虞ナシトセス勿論政府當局者ニ於テ無責任ナル言辭ヲ使用セラルル筈ナク前記委員等ノ話モ何ノ程度迄眞實ナリヤ頗ル疑ハシキ次第

第八二號

南京發本官宛電報

合第一〇六號(六日後)

本官發大臣宛電報

第一三二號

「當地支那側官憲カ最近我方ニ對シ極度ニ好意ヲ示シツツアル次第ハ往電第一三一號ノ通ナルカ右ハ固ヨリ我方ノ實力行使ヲ恐レ居ルニモ依ルコトト思ハルモ本官カ支那側官憲トノ會談ニ依リ得タル印象ニ依レハ當地支那側當局ハ只管當地ノ治安維持ニノミ專念シ上海事件ノ當地ニ波及スルヲ極力防止シツツアリ即チ上海ハ上海ニテ南京ハ南京ナリトノ態度ヲ持シ當地カ上海ノ事件ニ捲込マルルコトヲ極度ニ恐レツツアリ

三柳原ノ蘇州ヨリノ歸來談ニ依レハ蘇州ノ當局モ上海ノ情報カ蘇州ニ入ルヲ極力防止シテ民心ノ動搖ヲ防クト共ニ我方ニ對シテハ頗ル好意ヲ示シ我方ト良好ナル關係ヲ持續シ極力同地ノ治安維持ニ努メ居リ鎮江モ同様ノ狀態ナリトノコトナルニ依リ最早各地共各地自身ノ利益保全ニ努メ全然他ヲ顧ミル餘裕ナキモノト認メラル

ニテ自己ノ立場上幾多ノ誇張ヲ含ミ又談話者ノ意向ヲ勝手ニ付度セル點モ多分ニ存スル事ト察セラルルモ之等ノ言辭ハ時節柄俗耳ニ入り易ク從ツテ其ノ影響モ大ナルモノアル次第ニ付軍部各方面ト充分御連絡ノ上出先軍憲ニ對スル注意ハ勿論(一遣司令官ハ全然本官ト同意見ナリ)政府要路ニ於テモ之等委員又ハ代表者等接見ノ場合ニハ冒頭貴電ノ御趣旨ニヨリ大局論ヨリ充分之等ヲ啓蒙セラルルト共ニ苟モ公明正大ナル理由ノ現存セサル限り輕輕ニ兵力ヲ使用スルカ如キ事斷シテ之ナキ旨明瞭ニ說示セラルル様致シ度ク右申迄モナキ儀ナカラ最近歸來セル當地上京委員等ノ言動ニモ顧ミ御參考迄

支、北平へ轉電セリ

478 昭和7年2月13日

在中国矢野大使館參事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事變の南京および蘇州方面への波及防止 に關する中国側官憲の態度について

北平 2月13日後發
本省 2月13日後着

三前記ノ如キ事情ニ加ヘ元々十九路軍ハ當方面ニ對シテハ異分子ナルヲ以テ之カ潰滅ニハ左シテ痛痒ヲ感セス寧口之ヲ喜フ向キモアルヘク他方當方面責任者ノ恐レル所ハ敗殘兵ノ逃込及其影響ニ依ル治安ノ動搖ニアルモノト思ハル現ニ四日柳原一行カ蘇州ニ赴ケル際ニモ同列車ニテ南京ヨリ八十七師ノ軍隊一列車ニ滿載蘇州ニ送ラレタル趣ニテ(目下南京ニハ谷正倫ノ手兵ヨリ居ラス)若シ十九路軍カ上海ヨリ敗走シ蘇州方面ニ入ラントスル場合ニハ或ハ蘇州方面ノ軍隊ハ之ヲ阻止スル手段ニ出ツルニアラスヤトモ思ハル

公使、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州ニ轉電セリ

奉天ヨリ吉林、哈爾濱ニ轉報アリタシ

479 昭和7年2月15日

在上海村井總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

日中紛争に伴う外国人生命財産への損害につき
中国政府は責任なしとの申出に対し日中双方に責任ありとの米國總領事談について

上海 2月15日後発
本省 2月16日前着

第三一八號

往電第二八八號ニ關シ

領事團秘書「ロング」カ館員ニ内報セル所ニ依レハ吳市長ハ關係國領事ニ對シ工部局ニ於テ日本軍カ租界ヲ軍事行動ノ根據トシテ使用スルコトヲ防止シ得サル結果支那軍カ日本軍ニ對シ執ルコトアルヘキ軍事行爲ノ爲外人ノ生命財産ニ損害ヲ及ホスコトアルモ之ニ對シ支那政府ハ責任ヲ負ハサル旨申出タルニ對シ米國總領事ハ十三日附米國政府ハ日支兩國紛争ノ困難ナル事態ニ即シ常ニ公平中立ノ態度ヲ持スルニ努メ來リタルカ日支紛争ノ結果兩國軍隊等ニ依ル米國人ノ生命財産ニ對スル一切ノ損害ハ兩國政府及官憲ニ於テ負ハサルヘカラサルモノナル旨回答セル趣ナリ

聯盟ヨリ英、佛ニ轉電アリタシ

聯盟、米、北平、奉天ヘ轉電シ公使ヘ轉報セリ

480 昭和7年2月18日

在上海村井總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変に伴う英国兵士死亡に關し英国總領
事に弔意表明について

上海 2月18日後発
本省 2月18日後着

第三三三號

往電第三三一號ニ關シ

本官十八日午前英國總領事ヲ往訪事件發生ニ付深甚ナル遺憾ノ意ヲ表シ我方ハ租界使用ニ關スル問題ハ暫ク別トシスルコトアランカト憂慮シ實際租界ノ使用ヲ最小限ニ止メントシ日本兵モ租界東端ニ集メ本部ハ租界外ニ置ク等注意シタルカ支那側ハ單ニ日本ト第三國トニ水ヲ差サントシテ斯ル惡戯ヲ爲スモノトシカ思ハレス何レニモセヨ日支衝突ノ餘波ヲ蒙ラレタル譯ニテ御氣ノ毒ノ至ナルカ現在ノ狀態ニテハ我々ノ困難ナル事情ヲモ諒トセラレ寛恕ヲ請フノ外ナシトノ意味ヲ述ヘ尙負傷兵士(其後死亡)ノ遺族ニ弔意傳達方ヲ依頼セルニ英國總領事ハ之ヲ諒トシ政府ニモ報告スヘシト挨拶シ更ニ日本側ハ一切租界ヲ使ハサルコトニ出來サルヤト述ヘタルニ付日本軍ハ日本人ノ生命財産保護ト共ニ日本人ノ居住スル租界防備ノ任務ヲ有シ支那ノ攻撃ニ對シ

防禦シ居ル建前ナレハ事實上成ルヘク租界ヲ使ハサルコトニハ注意シ居ルモ全然使ハスト云フ譯ニハ行カスト答ヘ置ケリ

聯盟、米、英、北平、奉天ヘ轉電セリ

481 昭和7年2月20日

芳沢外務大臣より
在漢口坂根總領事宛(電報)

十九路軍に対する攻撃開始に伴う居留民の保護に留意方訓令

本省 2月20日後8時30分発

第二四號(至急)

今回上海ニ於テ第十九路軍撤退方ニ關スル我方要求ヲ支那側カ拒絕シタル結果愈同軍ニ對スル攻撃開始セラレ我軍ノ行動ハ上流一帯ニ相當激甚ナル影響ヲ及ホスヲ免レサルヘキ處從來支那側カ第十九路軍ノ勝利ヲ盛ニ宣傳シ居リタル關係上其ノ愈々敗退シタル場合ノ反動モ從ツテ大ナルヘシト懸念セラル、モノ有ルニ付キテハ貴地居留民ノ保護ハ勿論上流ヨリノ避難、租界ノ防衛、下流トノ交通等ニ付警備艦側ト此上トモ連絡ヲ執リ更ニ一層ノ注意ヲ以テ最惡ノ場

合ニ處シ遺憾無キヲ期セラレ度ク往電第七号ノ次第モアリ萬御如才無キコト、ハ存スルモ為念

訓令トシテ沙市長沙九江宜昌ヘ轉電アリ度シ

公使、南京上海ヘ轉電セリ

482 昭和7年2月20日

芳沢外務大臣より
在広東須磨總領事代理宛(電報)

上海において十九路軍敗退の際の反動が憂慮されるため居留民保護に留意方訓令

本省 2月20日後8時40分発

第一三號(至急)

今回第一九路軍撤退方ニ關スル我方ノ要求ヲ支那側ニ於テ拒絕シタル結果愈々同軍攻撃開始セラレタル處同軍ノ主力カ貴地出身タルノ關係モアリ殊ニ事件以來支那側カ同軍勝利ノ逆宣傳ヲ盛ニ行ヒ貴地方ノ民心著シク煽^煽漫且毎日のトナリツツアル際同軍敗退ノ場合ノ反動モ從ツテ大ナルモノアルヘシト憂慮セラル、次第ナルニ付キ御如才無キコト、ハ存スルモ警備艦側ト此ノ上トモ連絡ヲ密ニシ更ニ一層ノ注意ヲ以テ最惡ノ場合ニ處シ居留民保護上遺憾無キヲ期セ

ラル、様充分御配慮アリ度シ往電第九號ノ次第アルモ爲念
訓令トシテ福州厦門汕頭ニ轉電アリ度シ
公使上海南京香港台灣總督へ轉電セリ

483 昭和7年2月22日 在広東須磨總領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海よりの中国人避難者多く居留民へ自重方
嚴重要請について

広東 2月22日後発
本省 2月22日後着

第一三七號

貴電第三三三號ニ關シ

一、本官ニ於テモ萬一ノ場合ニ備フル爲種々手配中ナル次第
ハ往電第九九號等ヲ以テ既報ノ通ナル處其ノ後支那側ニ於
テモ邦人ノ保護方ニ付テハ特ニ注意シ居ル模様ニモアリ只
今ノ處左シテ懸念スヘキ狀態ニモ非サルカ最近上海ヨリ避
難歸廣スル者(廿日漢字紙ハ十九日ノ歸來者千餘名ト報ス)
相當多ク之等ノ歸來者談トシテ「日本軍ハ廣東人トサエ見
レハ之ヲ虐殺ス」等減法ナル宣傳ヲ爲シツツアリ上海ニ於

テ引揚命令又ハ勸告ヲ爲スコトハ出兵ノ目的タル現地保護
ノ方針ニ反スルノミナラス軍側トノ關係ニ於テ考慮スヘキ
モノアルニ鑑ミ河畑行政委員會長ヨリ非公式ニ婦女子ニ内
地引揚ヲ勸告セシメ旅費無キ者ニハ旅費及辨當費ヲ給與ス
ルコトニ取計ヒ置キタルニ付御了承願ヒタシ

尙右ニ依リ歸國スルモノノ數ハ算定甚タ困難ナルカ三千人
以內ノ豫想ナル處二十四日鹿島丸(神戸直航ナルカ臨時ニ
長崎ニ寄航セシムル豫定)二十五日長崎丸ノ次ニハ適當ナ
ル船無キニ付二十三日神戸ニ到着セル上海丸ヲ二十四日神
戸發上海ニ直航セシメタシ右ハ郵船支店ニ話シ濟ナルカ本
省ヨリモ本社ニ然ルヘク御命令相成度シ

485 昭和7年2月24日 芳沢外務大臣より
沢田連盟事務局長
在米國出淵大使

宛(電報)

中国軍の閩北攻撃の実況について

合第五九九號

本省 2月24日發

ケル事態ノ推移ニ連レ或ハ意外ノ變化ヲ來スヤモ計ラレス
依テ在留民ニ對シテハ此ノ上トモ自重方嚴重申聞ケタルト
共ニ成行注視中ナリ

三、尙在留邦人現在數ハ二百十九名(中婦女子ハ十一名)(外
ニ臺灣朝鮮人計十七名及支那人ノ妾ト成レル者並住所不定
歸化人若干名アリ)ナル處右ハ何レモ差當リ引揚ケ得サル
者ノミナリ

東京ヨリ臺灣へ御電報ヲ請フ

公使ヨリ上海へ轉報アリ度シ

公使、南京、福州、厦門、汕頭へ轉電シ香港へ暗送セリ

484 昭和7年2月23日 在上海村井總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海残留婦女子の内地引揚げに関する非公式
勸告について

上海 2月23日後発
本省 2月23日後着

第三七二號(至急)

往電第三六九號ニ關シ

残留者中引揚命令ノ發出方ヲ希望スルモノアル處本官ニ於

上海閩北ノ支那軍ハ廿一日午後七時頃ヨリ我方ニ對シ猛烈
ナル砲撃ヲ試ミ陸戰隊本部附近ニ落下セル砲彈約百發、北
部日本小學校(陸戰隊大隊本部)附近ニハ約八十發、邦人住
宅アル麥拿里(Magnolia terrance)ニハ數發アリ日本女學
校(陸戰隊本部東方)及北部日本小學校ニハ夫々砲彈命中シ
我兵即死一名負傷數名ヲ出セリ又麥拿里方面ニ落下セル砲
彈ハ火災ヲ起シ十數戸焼失セルカ二十二日ニハ北四川
路以上何レモ租界「エキステンション」及乍浦路(租界内)
邦人居住地域内ニ數十發ノ砲彈落下シ火災ヲ起シ橫濱橋附
近一帶火ノ海ト化セリ我在留民ノ死傷數二十二日夜迄ニ判
明セルモノ死者男子三名小兒一名重傷男子二名婦人一名小
兒一名輕傷小兒三名

聯盟ヨリ在歐各大使へ轉電アリタシ

米ヨリ加奈陀、紐育、市俄古、桑港ニ轉電アリ度シ

486 昭和7年2月24日

芳沢外務大臣より
在奉天森島總領事代理、在上海村井
總領事、在香港吉田(丹一郎)總領事
代理他宛(電報)

上海總領事の十九日付市長宛要求に対し国民

政府より回答なきため我が軍は二十日午前七時半より攻撃開始について

本省 2月24日発

合第六〇〇號

上海方面狀況

一、上海ニ派遣セラレタル我陸軍ノ後續部隊ハ二月十六日迄ニ同地ニ上陸ヲ了セルカ(我軍ノ一部分カ租界内ニ上陸セルニ對シ英、米、伊各國總領事ヨリ右ハ租界ヲ以テ軍事行動ノ根據トナスモノナリトシテ抗議シ來レルカ英米軍トテモ租界内ニ上陸シ居レルノミナラス各國司令官ハ其分擔區域内ニ必要ナル兵數ヲ上陸セシムル權限アリ右趣旨村井總領事ヨリ回答セリ)我方ニ於テハ租界及居留民ニ對スル緊急ノ危險ヲ除去スル爲メ支那軍ヲシテ至急着彈距離外ニ撤退セシムルコトヲ肝要ト認メタルカ在上海列國代表ハ其趣旨ニハ贊成シツツモ共同動作ニ出ツルヲ欲セス我軍ニ於テハ英國公使ノ斡旋ニ依リ第十九路軍側ト時局ノ和平解決ノ爲意見ノ交換ヲナシタルモ纏ラス遂二十九日午後九時村井總領事ヨリ吳市長ニ宛テ(我方ニテハ地方的問題タルノ建前ヲ執リ國民政府ヲ相手方ト

セス)(一)支那軍ハ二十日午前七時迄ニ第一線ヲ撤退シ同日午後五時迄ニ共同租界境界線ヨリ北二十軒ノ線ニ撤退スヘク支那軍ノ撤退實行ヲ確認スルトキハ日本軍ハ虹口(Hongkew)附近ノ工部局道路地域(大体舊地位)ヲ保持スルニ止マルヘク(二)上海附近外人保護ニ付テハ將來商議セラルヘキコト竝ニ(三)吳市長ハ一月二十八日其ノナセル排日禁止ニ關スル約束ヲ實行スヘキコト等諸要求ヲナシ同時ニ我陸軍司令官ヨリモ第十九路軍長宛テ略同様ノ要求ヲ提出シ右諸要求事項實行セラレサルトキハ我軍ニ於テ自由行動ニ出ツルモ其結果ニ關スル一切ノ責任ハ支那側ニ歸スル旨通告セリ(右兩通告ハ十九日正午公表セララル)然ルニ十九日夜ニ至リ吳市長ヨリハ村井總領事ニ對シ我要求ハ支那軍隊ニ轉達シ難ク中央政府ニ轉達セルコト蔡軍長ハ我司令官ニ對シ第十九路軍ノ行動ハ國民政府ノ指示ニ俟ツカ故ニ國民政府ニ交渉セラレ度キ旨回答シ來レル處二十日午前七時迄ニハ國民政府ヨリ直接間接何等返答ナク支那軍ハ依然第一線ニ在リシヲ以テ我軍ハ特ニ三十分ノ猶豫ヲ置キ同日午前七時半ヨリ攻撃ヲ開始セリ

二、攻撃開始當時支那軍ハ吳淞「クリーク」ニ沿ヒ四、五「キロ」ノ地點ヨリ略黃浦江岸ニ併行シ閘北(Chapel)ニ至ル線ニ在リシカ我軍ハ次第二敵ヲ壓迫シ租界ニ危害ヲ及ホササル方針ニ基キ重點ヲ敵ノ中央ニ向ケ廿一日江灣鎮(Kiangwan chen)ヲ陷レ廿二日朝江灣鎮北方廟巷鎮一帶ノ敵陣地ヲ奪取セル趣ナルカ閘北方面ニ於テハ二十一日ヨリ二十三日朝迄相當支那側ヨリ猛烈ナル砲撃アリ邦人住宅地方面ノ被害相當大ナルモノアルカ如シ

487 昭和7年2月24日 在福州田村總領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

当地派遣北上艦長らの領事館を無視した越軌行動は正につき海軍省側に交渉申入れ方稟請

福州 2月24日後発 本省 2月24日後着

第七二號

三、支那軍カ「ダムダム」ヲ使用シ居ル疑豫テヨリアリシ處我軍鹵獲品中ヨリ「ダムダム」彈ヲ發見シ村井總領事ヨリ在上海各國領事ニ實物ヲ參考トシテ送付シタリ普通情報轉電宛先ニ可然轉電又ハ暗送アリタシ奉天ヘ

「奉天ヨリ哈爾濱、齊々哈爾、滿洲里ヲ除ク在滿各領事ヘ轉電シ各分館ヘ暗送セシメラレタシ」ト附記ノコト
上海ヘ
「福州、厦門、南京ヘ轉電セリ」ト附記ノコト
香港ヘ

五 上海事變關係

「廣東汕頭ヘ轉電セリ」ト附記ノコト

重大時局ニ際シ警備艦側トノ密接聯絡方ニ關シテハ特ニ廣東宛貴電第一三號等御訓令ノ次第アリ時局以來本官宿舍ニ來泊スルヲ常トセル北上艦長草鹿大佐ニモ右ヲ内示シテ只管協力方ニ努力シ居レル處何分海軍側ニテハ動モスレハ在支公使發合第四四號電報ノ如キ氣風見ヘ特ニ同艦長ハ西湖事件ノ惹起者ニシテ次イテ間接ニハ翌日ノ水戸事件ノ誘因ヲナシ當地本官ニハ誠ニ困難ナル苦杯ヲ嘗メシメタルカ其後モ往電第五二號末段ノ通何カト中國側トノ交渉上ニモ注文多ク本官等ハ努メテ之ヲ容レ居ル次第ナルカ艦長初メ乗組員側ニモトモスレハ在留民警備其ノモノハ寧ろ第二段ニ戰鬪行爲ヲ主眼トシ機會ヲ狙フカ如キ口吻ヲ洩シ曩ニ當地

在留婦女女子ヲ早キニ及ンテ引揚ヲ決行セサルヲ得サリシ一因モ茲ニアリシ次第ナルカ最近上海總攻撃ニ關スル支那側逆宣傳ニ刺戟セラレ一層此ノ傾向大ナルヤニ見受ケラルル處客年九月滿洲事件勃發當時警備艦側ノ意見ヲ咨レ當館門前ノ宿舍ノ一部ヲ明ケ警戒兵トシテ武裝セサル水兵約二十名ヲ毎日交代ニテ上陸宿泊セシメ特ニ嚴重警戒ヲ必要トスル場合ニハ臨時増加シ來レル處先般ノ事件後居留民會ニモ一部宿泊セシムルコトトナレルカ其後右交代制度ヲ變ヘ陸戰隊トシテ(武器ハ包裝搬入セルモ外部ニ使用セス)大尉ヲシテ統率セシメ居レル處一兩日前突然當館ニ無斷ニテ前記宿舍ヲ引拂ヒ全部七八十名民會建物ニ引移リ外國人居住區域タル倉前山占領計畫ナルモノヲ目標ニ訓練スルノ必要上トノ事ナルカ如何ニ用兵上ノ事柄トハ云ヘ陸上ニ於テ斯ク勝手ノ行動ヲ繼續セラルルニ於テハ警備艦カ上陸セシメ得ヘキ兵員ハ精々三百名ヲ出テサルノ事實ニ鑑ミ下江ヨリ三十哩途中閩江兩岸ニ砲臺ヲモ控ユル袋路ノ如キ當地ニテノ行動トシテハ在留民ノ保護安全ヲ期スル上ニ於テ特殊ノ考慮ヲ要スル事情アリ右ハ海軍トシテモ差當リ何等他意アルコトトハ存セサルモ其頭ノ置所ニ鮮カラス懸念セラルル

内務次官 河原田 稼吉殿
外務次官 永井 松三

在支邦人避難民ノ救護ニ關スル件

今次上海事件ニ因ル在支邦人避難民ノ救護ニ關シテハ既ニ貴省並ニ關係各府縣ニ於テ種々御配慮ヲ煩シ居ル處今般愈々救護費支出ヲ得ルニ至レルヲ以テ自今此等避難民ノ救護ニ際シテハ左記各項ヲ參酌相成ル様關係府縣知事ニ御通牒相煩度此段御依頼申進ス

記

- 一、当省支出ノ救護費ハ一日一人十二才以上ノ男五〇銭全女四〇銭十二才未満ノ男女三〇銭ヲ限度トスルコト
- 二、当省予算ニ依ル救護期間ハ本年三月末日迄トス但シ右期間内ト雖モ救護ノ必要ナキニ至レリト認メラル、モノニ對シテハ隨時之ヲ打切ルコト
- 三、当省救護費全般ノ經理上必要ニ付二月末日現在ニ依リ既ニ救護シ若クハ現ニ救護中ノモノ、氏名及支那ニ於ケル原住所、各人ニ對スル救護日数並支出救護費額ニ付關係府縣廳ヨリ一應当省宛御報告相煩ハシタキコト

以上

節アリ當方ヨリハ御訓令ヲ体シテ聯絡ニ努ムルハ勿論ノ儀ナルモ海軍側ニ於テモ警備艦ノ陸戰隊又ハ警戒兵ノ上陸配置増減移動等苟クモ陸上警備ニ關シテハ單ニ之ヲ用兵上ノ問題トシテ單獨行動ニ出テス對支對外關係ヲモ考慮スル要アルニ付陸上ノ責任(者)タル領事ト事前ニ篤ト交渉スル様海軍省側ヨリ一般的ニ訓達方御取計ヒヲ得ハ御訓令遂行上好都合ト思料ス爲念
公使へ轉電セリ

488 昭和7年2月25日 永井外務次官より
河原田(稼吉)内務次官宛

上海事変による避難民への救護費支出に關シ
關係府県への通牒方依頼について

付記一 二月四日、亞細亞局第二課起案高裁案

「在支居留民救護費第二次臨時支出方ノ件」

二 外務省作成(月日不明)

「時局ニヨル支那本部在留民救護狀況」

亞二機密第八三號

昭和七年二月二十五日

(付記二)

昭和七年二月四日起案

同日 月 日決裁

高 裁 案

在支居留民救護費第二次臨時支出方ノ件

曩ニ滿洲事變ニ伴フ滿洲及支那本部各地ノ居留民救護ノ緊切ナルヲ認メ昭和六年度追加豫算トシテ金四二七、六六七圓ノ高緊急支出ヲ仰キ之ニ依テ急迫差措キ難キ最少限度ノ救護ニ充テ來リタル處去一月二十七日俄然哈爾濱ニ於テ吉林軍憲ト反吉林軍トノ武力衝突勃發シ爲ニ居留民中數名ノ死傷者ヲ出シ我出先官憲ハ極力之カ救護ニ努メツツアル次第(別ニ皇軍出動ノ途中ニ在リ)ニシテ俄ニ救護費ノ増大ヲ來シ又一月二十九日上海ニ於テハ支那軍憲ノ我方ニ對スル武力行動開始ニ基キ帝國陸戰隊亦防衛行動ヲ執ルノ已ムナキニ至リ爲ニ上海居留民ハ是亦絶大ノ危險ニ暴露セラレ既二十餘名ノ死傷者ヲ出シタル次第ニシテ之カ救護及内地送還ヲ要スル者俄ニ激増シ並右上海事件ノ餘波ヲ受ケ長江及南支各地共俄然居留民ノ生命財産危殆ニ瀕シタルヲ以テ一齊ニ之カ救護送還ノ必要アル新規ノ事態ヲ發生シタルモノ

ナルニ付左記本件救護費昭和六年度追加豫算トシテ緊急支出方省議決定相成ルト共ニ至急政府ノ議ヲ纏メラル、様致シ度

記

救護費 三六五、一五五圓
送還費 二六四、九〇一圓
醫療費 一、〇二五圓
備船費 三九、六一〇圓
合計 六七〇、六九一圓
右仰高裁

(付記二)

時局ニヨル支那本部在留民救護狀況

客年九月滿洲事變勃發以來長江一帯及南支各都市ニ於テハ反日氣勢ノ激化及排日排貨運動ニ因リ邦人居住營業ノ安全脅サレ各地在留民ハ殆ト皆業務ヲ休止シテ徒食スルノ窮境ニ陥リ鄭州、雲南、重慶等各地在留民ノ如キハ全部内地其他ヘ引揚ノ已ムナキニ至リタルカ資力薄弱ナルニ加ヘ累年ノ排日並ニ客年ノ長江大洪水等ニヨリ既ニ相當疲弊シ居タ

重慶及南京居留民八一名ニ對スル救護費合計九、九八五圓

ハ夫々被支給者ノ現住所タル内地及上海ニ於テ之ヲ支給セリ

尙上海事件ノ結果上海其他各地在留民ニシテ内地其他ニ引揚ノ餘儀ナキニ至レルモノ合計約一三、五〇〇名ニ達シ内約一〇、〇〇〇名ハ長崎ニ上陸セルカ其ノ内ニハ着ノミ着ノ儘ニテ戦火ノ難ヲ避ケ來レルモノ多數アリ之等ニ對シテハ長崎縣ノ協力ニヨリ長崎ニ於テ之カ救護ヲ行ヒタルカ右ニ依リ救護ヲ受ケタル員數ハ合計約一五〇名ニシテ之ニ支給セル歸郷旅費ハ約六〇〇圓、生活扶助費ハ約四五〇圓ナリ

489 昭和7年3月4日

芳沢外務大臣より
在仏国栗山臨時代理大使、在ソ連邦
広田大使、在米国出淵大使他宛(電報)

我が軍の総攻撃により中国軍は我が撤退要求
区域外へ退却について

合第七〇〇號

本省 3月4日発

ル中小工業者及所謂共喰の小商人ハ之カ爲殆ト起ツ能ハサル打撃ヲ受クルニ至レリ而モ引續キ北支方面ニ於テハ客年十一月初旬天津事變ノ勃發アリ更ニ本年一月末ニハ上海事件發生シ兩地並ニ附近各地在留民ハ何レモ之カ影響ヲ受ケテ營業ノ梗塞、引揚避難ヲ餘儀ナクセラルル等ノ結果客年來ノ苦境ヲ辛クモ切抜ケ來レルモノニシテ遂ニ生活困難ニ陥レルモノ多數ヲ出セリ是等時局ニ因リ生活困難ニ陥リ救護ヲ要シタルモノニ付テハ各地領事ヲシテ夫々其ノ員數ヲ報告セシメ大体一人一日大人(十二才以上)男金五〇錢大人女金四〇錢、子供(十二才未満)金三〇錢ノ割合(福州臺灣人要救護者ニ對シテハ内地人ノ半額)ヲ以テ大体救護原因發生ノ時ヨリ本年三月末日迄ノ期間ヲ限り救護費ヲ支給シ尙内地其他ヘノ引揚避難者ニシテ旅費自辨ノ能力ナカリシモノニ對シテハ夫々之ヲ支給シ又民團民會等ニ於テ政府ノ救護實施ニ先立チ旅費、生活費等ノ補助ヲ爲シタルモノニ對シテモ夫々之ヲ補助セリ右ニヨリ直接政府ノ救護ヲ受ケタル人員ハ合計約三、二五〇名之ニ對シ支給シタル救護費合計約二〇七、〇〇〇圓、又民團民會ノ支出セル生活補助費、旅費等ノ補助額ハ合計約二五、〇〇〇圓ヲ算シ其ノ内鄭州

上海事件情報

一、我方ノ支那軍撤退要求ヲ支那側ニ於テ拒絕セル爲我軍ハ已ムヲ得ス二月二十日以後自由行動ヲ執ルニ至リシカ支那側ハ續々援軍ヲ集中シ多大ノ脅威ヲ與ヘタルヲ以テ我方ニ於テハ右脅威ヲ急速ニ排除スルノ必要ヲ認メ二月十三日急遽約二ヶ師團ヲ上海方面ニ増進スルニ決シ右増遣部隊ハ廿八日頃ヨリ同地ニ到着シ三月一日我軍ハ全線ニ亘リ總攻撃ヲ開始シ同日午前遂ニ支那軍ヲシテ我方要求撤退區域外ニ退却セシメタリ

二、茲ニ於テ我軍司令官ハ同日支那軍退却シ帝國臣民ノ安全ト上海租界ノ平和回復ノ兆ヲ認ムルニ至レルヲ以テ支那軍ニシテ敵對行爲ヲ執ラサル限り暫ク軍ヲ現在地ニ止メ戰鬪行爲ヲ中止セントスル旨聲明ヲ發セリ
普通情報轉電宛先ニ可然轉電又ハ郵送アリタシ

490

昭和7年3月11日

在漢口坂根總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

塩沢第一遣外艦隊司令官の漢口訪問は種々問題はあるも実施すべき旨意見具申

漢口 3月11日前発
本省 3月11日後着

第一九〇號(極秘)

往電第一八九號ニ關シ

一遣司令部特ニ鹽澤司令官ノ來漢ニ付テハ何分上海事件發生ノ直接關係者ナル爲當地支那民衆ニ相當「センセイション」ヲ與フル事正ニ豫期セラレシ處ニシテ殊ニ其滯漢中ハ新聞等或ル程度迄騒ギ立ツヘキ事モ亦已ムヲ得スト察セラ
ルル處今日迄漢口カ幸ニ在留邦人中一人ノ怪我人ヲモ出サ
ス支那側ヨリ邦人ノ財産ニ直接手ヲ掛ケラレタル事例一度
モナク平穩ト云ヘハ平穩ニ過キ來リタルハ頗ル結構ナルカ
如キモ邦人取引ノ相手方タル支那商ニ對スル黨部其他ノ内
密ノ壓迫今以テ跡ヲ絶タル爲支那商品ノ取引不能日本商
品ノ引渡シ遲延ヲ致ス事少シトセス其場合一々當館ヨリ警
備司令部等ニ交渉シ事件ヲ解決シ得タル實狀ニテ大体ニ於
テ漸次改善ノ模様アリトハ云ヘ當地在留民トシテモ決シテ
充分満足シ居ル譯ニ非ス從テ本官ヨリ支那側ニ對シ此ノ通
商妨害ノ狀態長引ク結果在留邦人ノ憤激ヲ買フニ於テハ直
ニ海軍側ヲモ刺戟シ延テ當地ニモ上海事件ノ二ノ舞ヲ見ル

昭和七年四月七日

在上海

總領事 村井 倉松〔印〕

外務大臣 芳澤 謙吉殿

上海事件後居留民ニ爲シタル諭告、婦女子ノ引揚
ニ對スル民團側ノ非公式勸告及日本人ノ被害ニ對
スル工部局等宛抗議ニ關スル件

本件ニ關シテハ四月上旬發拙電ヲ以テ及回報置キタル處右
ニ關聯スル左記書類寫御參考迄ニ別添ノ通り送附ス

記

甲號寫 三月八日附諭告

乙號寫 二月二十三日河瑞行政委員會長ノ談話

丙號寫 二月六日附「マクノーデン」宛書面

丁號寫 三月十一日附首席領事宛書面

本信寫送附先 在華公使

(別 添)

甲號

諭 告

五 上海事變關係

ニ至ルヘキ虞大ナル旨懇々警告シタル事モ既ニ一再ナラサ
ルニ照シ先ニ當地新聞ニ自殺ヲ傳ヘラレタル鹽澤司令官ノ
來漢ハ此ノ際第三國側ヲシテ日本ハ事ヲ好ムトノ誤解ヲ抱
カシメサル限り假令一時情勢惡化ノ危險ヲ伴フ事トスルモ
元來何レノ道行ハルヘキ當然ノ事ナルノミナラス別ニ當地
支那官憲ニ對シ本官ニ於テ今後ジリタタト「プレツシユア」
ヲ加ヘ以テ事態ノ結局的改善ヲ計ル一種ノ手段トモナルヘ
ク旁場合ニ依テハ意外ノ好結果ヲ齎シ得ヘシト考ヘラレ右
ノ次第ハ將來第三艦隊ノ一部カ當地迄溯航シ來ルカ如キ場
合ニモ大体同様ノ儀ニ付豫メ御含置キアリ度ク既ニ在留邦
人ノ一部ニハ一遣司令官此ノ際ノ來漢ハ多少疑惑トナスカ
如キ意見ヲ吐クモノモナキニアラサルニ依リ卑見爲念電報
ス
支ヘ轉電セリ

491 昭和7年4月7日 在上海村井總領事より
芳沢外務大臣宛

上海事變後居留民に行なつた諭告などについて

機密第三九一號

(4月18日接受)

今回我軍が在留邦人の保護並に租界防備の爲支那軍を撃破
し完全に當初の目的を達し帝國の國威を中外に發揚せられ
たるは同慶の至に堪へざる處今後吾人の一層努力を要すベ
き問題は租界の治安を速かに回復し之れを維持することに
貢獻すると同時に邦人の生活を一日も早く安定に導くに在
りと思ふ

然るに在留民中の一部無責任なる分子中には今回の兵力使
用は全く自分等從來の主張の通れるものと思惟し我軍の成
功も自分等の手柄の如く氣構ヘ其の間政府及軍に於て拂ヘ
る犠牲及軍事行動に伴ふ損失の如何に大なりしかを反省セ
ず徒らに戰勝氣分に驅られ支那人に對し驕慢不遜の言動を
爲すものありとのことなるが斯ては不必要に其の反感を挑
發し益々兩國人間の反目を強め事態を永く改善し得ざるに
至るべく深く戒慎の要あり就ては在留邦人は此の際右の點
に特に意を用ひ支那人に對しては優越觀念に基く振舞を慎
み溫情を以て之に莅み其の對日態度を根本より改めしむる
様仕向けらるべし

又外人に對し不軌の行動に出て事端を醸せる者あるは實に
遺憾に堪へず、斯かる所爲は其の累を機微なる國際關係に

及ぼすこと大なるを以て犯人は法に依り嚴重處斷すべきも
在留民は互に相ひ戒め斯かる事故の發生を阻止することに
協力せられたし

尚ほ序を以て申添ふる次第なるが此際在留邦人は左の諸項
に就ても充分注意することを要す

一、租界の夜間通行禁止時間を知らずして警察當局の手續
をかける者毎夜多數ある處斯の如きは法治國々民とし
て恥つべきことなるに付充分注意すべし(現行通行禁
止時間は午後十時より午前四時迄なり)

二、最近邦人にして佛租界及舊英租界内に於て支那人暴徒
の爲に危害を加へられたる事件もあるに付同方面に赴
くときには細心の注意を要す

支那町に行くことは最も危険なり

三、戦場より敵軍の遺棄したる武器其の他を記念の爲拾ひ
來たる者ある處右は軍の規則に反するのみならず危険
なるに付軍に於て特に許可したるもの以外は持ち來た
ることを得ざるものと知るべし尚ほ右物品を店頭其の
他人目を惹き易き場所に陳列するが如きは不必要に支
那人の反感をそそる事となるべきに付右の如きものあ

本省 5月12日発

合第一一八三號

今次ノ上海停戦協定ニ對スル支那各方面ノ態度ヲ觀ルニ

一、廣東ニ於テハ六日蕭佛成ヨリ南京政府宛協定調印ノ真相
ヲ公表スヘシトノ電報ヲ發シ次テ省市黨部ハ八日附協定
反對ノ通電ヲ發シ九日ニハ、蕭佛成、唐紹儀、陳濟棠、
李宗仁、白崇禧等在廣中央執監委員二十五名連名ノ協定
反對ノ通電ヲ發シタルカ(一)協定第二條ノ所謂常態トハ何
ソヤ日本側カ口實ヲ設クルトキハ附屬書第一號ノ地域ハ
永遠ニ日本ノ駐兵スル所トナルヘク(二)第四條ニ相互撤退
トアルハ侵略國ト被侵略國トヲ同視スルモノニテ又撤退
地域ニ警察ヲ置クハ支那ノ駐兵權ノ抛棄ニシテ天津條約
ノ二ノ舞ナリトシ尙今次ノ協定ニ際シ、滿州事件ヲ同時

りとせば直に撤去すべし
右諭告す

昭和七年三月八日

在上海總領事 村井 倉松

乙號

河端行政委員會長談話(二月二十三日)

皇軍ハ攻撃防禦ニ努メラルト雖モ敵彈ハ不絶吾々居留民
ノ住居スル地區ニ墜落爆發シテ或ハ人命ヲ損傷シ或ハ火災
ヲ起シテ財産ヲ燐燒スルハ遺憾ナリトス此際老人及婦女子
病者等ハ可及的内地ニ避難スルコトヲ勸告セントス此ニ要
スル船舶ハ其筋ニ於テ用意セラルヘク依頼シタリ。若シ旅
費ノ窮乏セル者アラハ直ニ町内會長若クハ同業組合長等ノ
證明ヲ以テ民團事務所ニ申込マルヘシ

492

昭和7年5月12日

芳沢外務大臣より
在米國出淵大使
沢田連盟事務局長

宛(電報)

上海停戦協定に対する中国各方面の反応について

二解決セサリシヲ攻撃シ居レリ尙ホ鄒魯ハ五月九日五九
紀念大會ニ於テ「今次ノ協定調印ニ依リ今後ハ新二五五
國恥紀念日ヲ加フルコトナリタリ」ト述ヘタリ

三、又上海ニ於テ同地抗日救國會ハ八日大會ヲ開キ國權ヲ喪
失スルモノトシテ停戦協定反對ヲ決議シタリ

四、支那諸新聞ハ協定ニ關シ論評ヲ加ヘ黨部又ハ政府要路ニ
關係アリト云ハルル新聞ヲ除キ概ネ喪權辱國ノ協定ナリ
トシ政府ヲ攻撃シ居レルカ其論點ハ主トシテ(一)滿洲事件
ト別箇ニ解決セルコト(二)損害賠償ノ問題ニ觸レ居ラス又
事件ノ責任ヲ明ニシ居ラサルコト(三)日本軍ノ無條件撤退
ヲ規定シ居ラサルコト等ナリ

壽府ヨリ土ヲ除ク在歐各大使ニ轉電アリタシ

大臣、支、北平へ轉電セリ

431 昭和7年9月16日 在長春田中總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

日本の満州国承認と同時に大連海關は満州国
に転属するとの満州国の見解に武藤大使同意
表明について

長 春 9月16日後発
本 省 9月16日後着

第六一〇號

武藤大使ヨリ

滿洲國ニ於テハ我方ノ滿洲國承認ト共ニ一九〇五年日清北
京善後條約ニ依リ關東州租借ニ關スル當事國ハ日支兩國ノ
代リニ日滿兩國トナリ一九〇七年ノ大連海關設立協定モ自

然滿洲國カ支那ノ地位ニ代リテ當事國ノ一方トナル次第ニ
シテ從テ大連海關ハ承認ト同時ニ完全且合法的ニ滿洲國ニ
歸屬スルト共ニ海關長ノ任命其他同協定ニ定ムル所ノ手續
ハ滿洲國トシテ當然遵守スヘキモノナリトノ見解ノ下二十
五日承認ト同時ニ財政部大連收稅所ニ對シ大連稅關ト改稱
シ滿洲國々旗ヲ掲クヘキコトヲ命スルト共ニ福本ヲ稅關長
ニ任命スルコトニ付協定(甲)ノ(一)ノ趣旨ニ從ヒ本使ノ同意ヲ
求メ來レリ
右ニ對シ本使ヨリ隨員ヲシテ異存ナキ旨ヲ答ヘシメタルカ
外交部ニ於テハ關稅改正ニ關スル聲明發表ノ際前記大連海
關ノ滿洲國歸屬ノ事實ト共ニ福本稅關長ノ正式任命ノ件ヲ
公表セリ
支、北平、奉天、哈爾濱、安東、牛莊、間島、關東廳、南
京、漢口、青島、天津、香港へ轉電セリ

五 上海事變關係

432 昭和7年1月23日 在南京上村領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海の情勢に伴う南京市内の緊迫化について

南 京 發
本 省 1月23日後着

第六三號

上海宛貴電第一一號及第一二號ニ關シ

南京政府ニ於テハ當地ニ於テ事端ノ發生スルヲ極度ニ憂慮
シ當局者ハ何レモ邦人ノ保護秩序ノ維持ニ付テハ萬遺漏ナ
キヲ期シ居ル旨言明シ居ル處一兩日來市中ノ警戒異常ニ嚴
重トナリ城門等ニ於テハ領事館ノ自動車(外交團用赤字番
號符ヲ附ス)ト雖一々停車セシムル等極度ノ注意ヲ拂ヒ居
リ市面ハ目下ノ處平靜ナルカ萬一上海ニ於テ抗日會解散等
ノ爲我方ニ於テ兵力ヲ使用スルカ如キコトアラハ如何ナル
事態トナルヤモ圖ラレスト存シ當館ニ於テハ公文書等ハ何
時ニテモ搬出シ得ル様準備シ居ル次第第二テ事態ノ推移ニ依

リテハ公文書等ヲ「ハルク」若ハ軍艦ニ移スト共ニ或ハ在
留民ノ引揚ヲ命シ更ニ領事館ヲモ事宜ニ依リ下關ノ花園飯
店乃至「ハルク」又ハ軍艦ニ移スノ必要生スヘク其時機ニ
付テハ勿論慎重考慮スヘキモ或ハ請訓ノ暇ナキ場合モ之有
ルヘキニ付右豫メ御含ミ置キヲ請フ
支、北平、奉天、厦門、漢口、廣東、福州、蘇州、杭州へ
轉電セリ

433 昭和7年1月29日 在南京上村領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

我が方海軍は今後必要な自衛手段をとる旨中
国側へ通告とこれに伴う領事館の下関への引
揚げについて

南 京 1月29日前発
本 省 1月29日後着

第八三號

一、上海ニ於ケル日支衝突ノ形勢刻々惡化ノ報軍艦ニ電報アリ當地駐在海軍武官ハ司令官ノ命ニ依リ既電ノ陳紹寬宛通告ヲ手交スルコト、ナレルニ付當館ハ一時下關ニ引上クルコトトセリ（雲陽丸ハ既ニ到着セルニ付右ニ乗船滯留ノ筈）

二、右ノ次第ニテ直ニ外交部其他ノ支那側當局ニ通知シ當館及在留邦人留守宅保護ノ依頼ヲナス手筈ナリ

三、引揚ケ後モ當館ニハ交替ニテ警察官又ハ館員二名位ヲ殘シ當館及邦人留守宅ノ監視ニ當ツル筈

四、在留民ハ一部新聞記者ヲ除キ全部昨二十八日夜下關ニ避難セリ殘留者モ今朝當館引揚前避難ヲ完了スル筈

奉天ヨリ在滿各領事ニ、漢口ヨリ上流及九江、長沙ニ、青島ヨリ芝罘へ、北平ヨリ張家口、赤峰へ、廣東ヨリ香港、雲南へ、夫々轉電ヲ請フ

公使、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州、蘇州、汕頭、厦門、蕪湖ニ轉電セリ

編注 一月二十六日發在南京上村領事より芳沢外務大臣宛

電報第七〇号『日本外交文書』滿州事変第二卷第一

側ヨリ逆撃シ來レルモ之ヲ撃退シ得ルノ用意成レリ

四、市面ノ銃砲聲ハ午後二、三時ノ頃ヨリ漸次鎮靜ニ向ヒタルカ我飛行機ヨリノ偵察ニ依レハ支那軍ノ大部隊ハ我防備線附近ニ殘留セサルニ至レルモノノ如シ防備區域内ハ勿論共同租界内ニテモ吳淞路「マーケット」其他日本人多數居住區域ニハ便衣隊ノ出沒頻繁ニシテ（吳淞路ニテ一名撃タレ死亡セリ）危險極マリナシ外國新聞記者中支那軍兵力便衣隊ニ改裝シツツアルヲ目認セルモノアリトノコトナリ

五、午後四時半頃上海日日新聞社員一名他ノ者一名ト共ニ共同租界内上海絹糸紡織工場附近ニテ多數ノ群衆ニ毆打重傷ヲ負ハサレタル事件發生セリ

六、共同租界及佛租界方面市街モ避難民等ニテ著シク混雜ヲ極メツツアリ

七、滬寧、滬杭線トモ當地トモ不通、杭州、蘇州、南京ヨリ來電ナク同地方ノ事情一切不明ナリ市内電話モ故障多ク各方面トノ聯絡困難ヲ感ス

八、當館館員官舎ハ防備區域内ニ在ルモノ多數ナル爲之等ハ全ク危險ニ曝サルルニ至レルニ付何レモ他ノ會社、個人

冊、十二頁

434 昭和7年1月29日 在上海村井總領事より 芳沢外務大臣宛（電報）

我が方空爆の被害および共同租界などの混乱 状況について

第一五〇號

往電第一四二號ニ關シ

二十九日午後ノ狀況

一、二十九日午後ニ至リ我飛行機ノ爆撃ニ依リ北停車場、商務印書館工場等閘北ノ重要ナル建物火災ヲ起シ同地方一帶非常ナル混雜狀態ニ陥リタル模様ナリ

二、北停車場（滬寧鐵道）ノ爆撃ハ同鐵道カ英國借款關係ナルニモ顧ミ成ルヘク之ヲ避クル様努メタルモ支那側カ裝甲車ヲ同停車場構内ニ引入レ又軍隊ヲ同所ニ集結シツツアル事實アルニ顧ミ遂ニ午後一時半之ヲ爆撃セルモノナリ

三、防備線ハ全線ニ亘リ午後五時ニ至リ防備設置完備シ支那

住居者ト等シク租界内ニ引揚ケタリ

九、日本飛行機爆彈佛租界ニ落チタリトノ噂アリシ處右ハ支那軍高射砲カ日本飛行機ニ向ケ發セル砲彈カ佛租界内ニ落チタルモノナルコト判明セリ

十、館員ハ何レモ全力ヲ盡シ不眠不休ノ活動ヲ續ケツツアリ支ヘ轉報セリ

米、聯盟、北平、奉天、天津、青島、濟南、南京、蘇州、杭州、漢口、廣東、福州へ轉電セリ

435 昭和7年1月30日 在上海村井總領事より 芳沢外務大臣宛（電報）

三十一日英國總領事館にて停戰協定成立の予定について

第一六一號（至急）

往電第一五五號ニ關シ

上海 1月30日後發
本省 1月31日前着
明卅一日午前十時英國總領事館ニ於テ停戰協定ヲ爲スコトトナリ支那側ヨリハ十九路軍毛師長及吳鐵城我方ヨリ司令

官及本官出席スルコトナレリ
米、聯盟、北平、奉天、天津、青島、南京、漢口、濟南、
蘇州、杭州、福州、廣東へ轉電セリ
廣東ヨリ香港へ轉電アリタシ
支へ轉報セリ

436 昭和7年1月30日 在廣東須磨(弥吉郎)総領事代理より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変に関する廣東方面の情勢について

廣東 1月30日後発
本省 1月31日後着

第七二號

上海事變ニ關シ當方面ノ情勢左ノ通

一、卅日午前公安局長香翰屏ヨリ代表トシテ倫秘書ヲ派遣越
シ此ノ際特ニ當市ノ治安ニ付貴方ト聯絡善處シ度キ所存ナ
ルニ付日本人ノ支那街外出ハ暫時見合ハサレ度キ旨申越セ
ルニ付當方ニ於テハ既ニ昨廿九日自發的ニ居留民ニ對シ支
那街外出ヲ絶對差控フル様説示済ミナル旨ヲ告ケ更ニ博愛
會病院及支那街現住邦人ニ對シテハ特別嚴重保護方要求セ

置につき何成濬主席より表明について

漢口 1月30日後発
本省 2月2日後着

第四四號

往電第三一號ニ關シ

何成濬ハ上海ニ於ケル日支軍衝突事件ノ餘波ノ當方面ニ及
ハンコトヲ慮リ二十九日左ノ通り手配セル旨並湖北省内ニ
於テハ右手配ノ結果何事ヲモ起サシメサル自信アルニ付安
心アリ度キ旨何ヨリ本官宛傳達越セリ

一、午前中綏靖公署長、獨立旅長及師長以上ノ軍事當局者並
各公安局長及水上公安局長等ヲ全部召集シ此ノ際民衆及黨
人ノ妄動ヲ絶對ニ禁止シ責任ヲ以テ日本人ノ生命財産ヲ保
護シ對日關係事故ヲ發生セシムヘカラサル旨並當分ノ間特
ニ當地治安維持ニ留意シ反動分子ノ策動ヲ豫防スヘキ旨嚴
重訓達セリ

二、日本人ノ在留スル沙市、宜昌、武穴、大冶ニ於ケル軍事
當局者ニ對シ午後四時至急電ヲ以テ「上海ニ於ケル日支軍
衝突事件ニ關シ如何ナル報告ニ接ストモ之ニ迷ハサルルコ
ト無ク其ノ地ノ治安維持ニ留意シ特ニ日本人ノ生命財産保

ル處右代表ハ管轄各分局ニ對シ右ノ旨既ニ嚴命済ミナリト
述ヘタリ

三、一方陳濟棠ハ往電第七一號ノ通電ヲ發シテ表面十九路軍
ノ士氣ヲ鼓舞シ居ル處實ハ内々頗ル怯ケ居ルモノノ如ク當
方面差當リノ對日策ニ付胡漢民ノ指圖ヲ仰ク爲既ニ林翼冲
ヲ赴香セシメタル趣ナリ

三、新聞紙ハ何レモ上海事變ノ報道ニ紙面ノ大部分ヲ埋メ
「十九路軍ハ日本海軍ニ對シ二十四時間内ニ上海撤退方ヲ
要求セリ」等種々ノ虛報ヲ掲載シ「鐵血ヲ以テ國土ヲ守衛
セヨ」等論說ヲ掲ケ居ル處一般市民ハ未タ真相ヲ詳カニセ
ス左シタル動搖ヲ來ササルカ十九路軍ハ殆ト全部廣東人ナ
ル關係モアリ旁々當方面ノ反日空氣ハ益々濃厚トナルヘク
樂觀ヲ許サス租界當局トモ聯絡警戒中

前電ノ通轉電暗送セリ

公使ヨリ上海、南京へ轉報アリタシ

437 昭和7年1月30日 在漢口坂根(準三)総領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変に伴う治安維持のための湖北省の措

護ニハ万遺漏無キヲ期スヘク若シ對日關係事故ヲ起サハ責
任上貴官ヲ嚴重處罰スヘシ」トノ電訓ヲ發セリ
三、特ニ宜昌ニ付テハ曩ニ日本海軍俱樂部放火事件等アリタ
ルニ鑑ミ午前中省黨部主席委員ヲ呼付ケ宜昌縣黨部ニ對シ
此ノ際縣長ト協力シテ治安維持ニ努メ事故ノ發生ヲ豫防ス
ヘキ旨電訓セシメタリ
前電ノ通轉電、轉報セリ

438 昭和7年1月31日 在中国重光公使より
芳沢外務大臣宛(電報)

二十九日より戦闘は停止されたが事態予測不
能につき杭州方面邦人に避難勧告について

上海 1月31日後発
本省 1月31日後着

第五三號

本使發杭州宛電報

第二號(大至急)

貴電第二號ニ關シ

二十九日午後八時ヨリ戦闘停止セラレ其間二回程不規則ノ

撃合アリ又便衣隊ノ租界潛入ハ依然絶エス三十一日朝來外國側仲介ノ下ニ彼我ノ間軍隊ノ衝突防止辦法ニ關スル交渉行ハレツツアルモ其成否未タ豫測シ得ス要ハ支那側ノ誠意如何ニ係ル次第ナリ目下ノ情勢ヨリ見レハ事態擴大ノ虞アリトハ斷シ得サルモ貴方ノ避難ハナルヘク早クセラルル方宜シカルヘシ

~~~~~

尙吳淞砲台トノ間ニハ未タ何等ノ事故發生シ居ラス又目下ノ所ハ南京ニ波及ノ虞ナカルヘキ見込ナリ

大臣ニ轉電シ上海ニ轉報セリ

439 昭和7年1月31日 在漢口坂根總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海事変の報道に伴う当地民心の動揺への対応について

漢口 1月31日後発  
本省 2月1日前着

第五一號

往電第三九號末段ニ關シ

上海ニ於ケル日支衝突狀況ノ支那側通信ハ果シテ三十日ノ

各漢字紙ニ掲載セラレ出シタルカ何レモ十九路軍ノ勝手ナル宣傳ニ供セラレタルモノノミニテ往電第五〇號ノ通り事實ニ反スルコト甚タシキ虚報ニ過キサル處之ニ依リ支那側民衆ハ著シク當地ノ不安ヲ感シ始メタル如キモ當局ノ取締嚴重ノ故モアリ市中別段異狀ノ認ムヘキナク租界内要所ニ一昨夜急造シタル土囊設備(萬一ノ場合機關銃掩護用ニ充ツルモノ)ヲ見テモ右ハ共匪軍來襲ニ備フルモノナリ(往電第四九號參照ヲ請フ)トノ當方ノ説明ニ深ク疑ヲ抱ク向モ少ク在留邦人側モ引続キ平靜ニ構ヘ居タル二本三十一日ニ入り突然聯合通信其他ニテ洛陽遷都決行對日宣戰布告決定支那側空軍出動準備等南京ニ於ケル事態急變セルヤノ報道南京及天津方面ヨリ頻々トシテ當地ニ達セシ爲居留民側ノ不安一度ニ高マリ今朝來支那街ニテ二三惡罵ヲ受ケタルモノノ如ク時日ト共ニ一層上海時局ノ推移ヲ心配スルニ至リ中ニハ「宣戰布告等ノ場合當地ニ於テ支那側正規軍ノ租界砲撃ヲ受クルカ如キ事態ニ至ラハ減水期ノ今日正ニ尼港事件ノ二ノ舞ヲ演スルノ外ナシ」トテ早クモ最惡ノ場合ヲ憶測シテ騒ギ出ス者サヘ出デタルカ本官ハ今夜ノ情報如何ニ依リ明朝民團ヲ通シテ租界外居住婦女子ニ先ツ租界ヘ引揚

ヲ勸告シ同時ニ他ノ一般租界外居住者モ何時ニテモ同様引揚ケ得ル様準備ヲ了セシメ置クコトスル考ニシテ警備司令部市政府乃至公安局ヨリ本日モ度々日本側ニ於テ何等心配セラレサル様シタキ旨申來リ又中央ノ宣戰布告說ノ如キ上海最近ノ情勢ニ照ラシ只今ノ處多數ノ者ハ未タ充分信ヲ措キ居ラサル模様ナルモ(支那側官憲ニ於テモ事實ヲ否定シ居レリ)南京政府ノ突飛ナル政策ニ對應シ當地トシテモ萬一ノ場合ニ善處シ得ンカ爲海軍側ニ於テハ今夜中ニ租界境界線ニ普ク鐵條網ヲ張廻シ且約百名ノ水兵ヲ内密海軍俱樂部ニ待機セシムルコトトナレリ尤モ其後ト雖ナルヘク支那側民衆ヲ刺戟セサルコト肝要ニ付何等不穩ノ徵候歷然タルヲ見ル迄ハ引續キ警察署員ノミニテ租界警戒ノ實際ニ當ラシムル積リナリ

支、北平、南京、長沙、九江、宜昌、沙市へ轉電セリ

440 昭和7年2月1日 在南京上村領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

南京における在留米国人の引揚げは自己の判断にまかすとのベック米國總領事談について

南京 2月1日後発  
本省 2月3日後着

第一〇〇號

往電第九四號ニ關シ

三十一日正午米國總領事「ベック」ト會見シタル處「ペ」ハ目下下關ニハ日本軍艦三隻碇泊シ居ルニ今朝更ニ四隻ノ驅逐艦入港シ何レモ砲彈ヲ裝填シ方向ヲ市中ニ向ケ戰鬪準備ヲ爲シ居ルニ依リ支那人ハ勿論外國在留民モ何時日本側カ砲撃ヲ開始スルヤモ計ラレストテ人心恟々タルモノアル處自分ハ貴官ヨリノ累次ノ説明ニ依リ日本側ニ於テ「イニシアティブ」ヲ取ル事無キヲ確信スルモ例ヘハ無考ヘナル支那人カ日本側ニ向ケ發砲ニテモ爲スコトアラハ遂ニハ日支間ニ砲火ヲ交ユルカ如キ事態ヲ現出スルコト無キヲ保セス旁最早自分ニ於テモ在留米國人ノ安全ニ付責任ヲ負ヒ難ク去リトテ此際引揚命令ヲ出セハ他ノ外國ニモ影響シ結局日本カ多數ノ軍艦ヲ以テ支那ノ首都ヲ威嚇シツツアルニ依リ外國人ノ安寧ヲ脅威セリトノ感ヲ與ヘ世界ニ對シ誠ニ面白カラサル印象ヲ殘ス事トナリ貴方ニ對シテモ御氣毒ニ付兎モ角本日は在留民ヲ集メ事態ヲ説明シタル上引揚ノ勸告ハ

爲ササルモ各人ノ「ディスクリション」ニ任ス旨述フル積リナリト語リ

更ニ右トハ別問題トシ日本海軍ニ於テ外國在留民ノ安全ノ點ヲ充分考慮ノ上自重センコト及若シ斯ク多數ノ軍艦ヲ當地ニ集中スル事無ク一部ヲ他ニ移スカ又ハ南京ヨリ幾分離タル個所ニ置カハ南京ノ人心安定上頗ル效果アルヘキ旨ホシノ思付トシテ述ヘ居タリ

北平、上海、漢口ヘ轉電セリ

441 昭和7年2月1日 在南京上村領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

雲陽丸への邦人収容は限界につき南陽丸による引揚げを命令について

南京 2月1日後発  
本省 2月2日前着

第一〇九號

往電第一〇六號ニ關シ

當地在留民ハ館員武官ト共ニ全部雲陽丸ニ收容シ居ル處同船ハ重慶航路用ノ小型ノモノニテ狹隘ナル爲壽司詰メトシ

公使ニ轉電セリ

442 昭和7年2月2日 芳沢外務大臣より  
在英國松平大使、在米國出淵大使、  
沢田連盟事務局長他宛(電報)

南京において砲撃事件発生を伝える海軍電報  
轉達について

本省 2月2日發

合第三三三號(大至急)  
(海軍省來電)

一日午後十一時獅子山(Shih-tzu-shan)砲臺ヨリ三發ノ砲撃ヲ認ムルト同時ニ日清ハルク警戒隊モ正規軍ノ狙撃ヲ受ケ救援ヲ求メ來レルヲ以テ直ニ各艦ニ警戒ヲ命シ鎮壓ノ目的ヲ以テ對馬八發(目標ハルク直前陸岸)天龍二發(目標モウコウモン)ノ緩徐ナル砲撃ヲ加ヘ午後十一時十五分射撃中止ヲ命シタリ尙天龍對馬ヲシテ夕月援助ノ下ニ午前零時五十分警戒隊ヲ收容ス領事其他官民乗用ノ雲陽丸ハ砲撃開始ト同時ニ平戸ノ上流三哩ニ轉錨ス

米ヨリ加奈陀、紐育、市俄古、桑港ニ轉電アリタシ  
佛ヨリ伊獨白ニ轉電アリタシ

置クコトハ衛生上ヨリモ面白カラス且ツ食料品ノ買入レモ困難トナリ更ニ市内ノ形勢愈不安ナル爲在留民ハ可ナリ恐怖心ヲ抱クニ至リ彈丸ヨケ鐵板ノ増設本船ヲ河ノ中流ニ繫留方等本官ニ陳情シ來ル有様ナルノミナラス蘇州邦人ノ當地引揚モ考慮セラレ居リ更ニ鎮江在留民ヲモ本船ニ收容スルコトアルヘキヲ豫想シ居ル際ナルニ付當地在留民ハ一先ツ上海ニ避難セシムルコト必要トナリタルカ他方大多數ノ在留民モ右ヲ希望シ居ル處在留民間ニ於テハ尙種々議論出テ議容易ニ纏ラス結局本官ヨリ引揚ヲ命セラルルニ於テハ全部(之)ニ從フヘキ旨議決セル趣ニテ本官ニ命令方申出タリ然ルニ適々南陽丸上海ニ歸航ノ途本一日當地ニ寄港セルニ依リ此ノ機會ニ於テ本官ヨリ引揚ヲ命シタリ(尤モ旅費等ハ自辨ノ建前トス)引揚ノ人數ハ全部ニテ二十四名特別ノ事由ニ依リ殘留セル在留民ハ六名トナリタルカ右殘留者中三名ハ次回ノ便船ニテ引揚ケノ筈ナリ

(尙新聞通信員ハ電報ノ發着モ不定ニテ活動ノ余地ナキ爲引揚ヲ希望シ居タルモ本社トノ關係上躊躇シ居タルカ本官ノ引揚命令ヲ好機トシテ全部引揚クルコトナレル次第ニ付右御含ミ置キヲ請フ)

443 昭和7年2月2日 芳沢外務大臣より  
在中國重光公使宛(電報)

蘇州居留民救出のための中国側への保護要請  
につき英國総領事に斡旋要請方訓令

本省 2月2日後8時40分發

第三五號(大至急)

上海發蘇州宛電報第五号及貴官發杭州宛電報第一号ニ關シ南京砲撃ノ結果蘇州ヨリ鉄道ニテ南京ニ出ツルコトハ不可能トナリタルヤニ思ハレ此際蘇州居留民ヲ救出スルニハ上海發蘇州宛電報第三号ノ方法ニ依ル外無シト認メラル、ニ付貴官ヨリ英國總領事ニ對シ篤ト懇談セラレ支那側ヲ説得シテ必要ノ護照ノ發給及途中ノ保護方ニ付銳意同總領事ノ盡力ヲ求メラレ度(本件ニ付テハ本々本大臣ヨリモ在本邦英國大使ニ依頼スヘシ)尙其レ以外ニ何等良案アラハ右ニ依リ同地居留民ノ安全救出方極力手配アリタシ

又杭州館員ニ對シテハ冒頭貴電ノ方法ニ依リ至急引揚方指令セラレ船艙及途中ノ保護等ニ付必要ナル手配ヲ講セラレタシ

蘇州杭州ニ轉電セリ  
上海ニ轉報アリタシ

444 昭和7年2月2日 在福州田村總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

居留民中婦女子大半の基隆への引揚げについて

福州 2月2日後発  
本省 2月2日後着

第五二號(極秘扱)

往電第三〇號ニ關シ

一兩日前來上海方面ノ空氣ノ如ク萬一ニモ突如對日宣戰ヲ見ルカ如キ場合ニハ交通不便ナル當地ニテ警備艦ニ於テ軍事行動ヲ開始スルカ如キコトアラハ在留民ノ引揚げハ一層困難ヲ來スヘク艦長ハ右ニ付相當焦リ氣味ニテ本官ノ居留民會議員等ノ招集ヲ待チ兼テ單獨招集シテ海軍ノ立場ナルモノヲ説明スル等結局萬一ノ際ハ婦女子ハ手纏ヒトナル惧アリ水戸事件以來神經過敏ノ在留民ニ又モ事件發生ヲ見ルカ如キコトナキ様萬全ヲ期スル豫防策トシテ一時長沙丸ニ收容セル婦女子約四百名ヲ其儘本日午後三時基隆へ出帆セシ

第六五號

南京發本官宛電報

第九八號

一日夜ノ事件以來上陸殆ト不可能トナリタルノミナラス食糧品ノ支給モ不可能トナリタル上支那側ハ浦口江岸ニモ塹壕ヲ建築シ初メ危險發生ノ恐レモ加ハリツツアルニ依リ貴方ニ於テ必要ト認メラルルニ於テハ本官外一、二名ノ館員ノミ軍艦ニ残り雲陽丸ハ一時上海ニ下航セシメ以テ少シニテモ衝突ノ危險ヲ除去スルコトトシ雲陽丸ハ更ニ形勢ノ推移ニ依リ食糧品石炭等ノ補給ヲナサシメタル上再ヒ回航セシムル事トシ度キ意向ナリ  
御同訓アリタシ

(二日朝發電ハ第九七號ナリ)

446 昭和7年2月2日 在漢口坂根總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

当地狀況不穩につき上海事変に伴う重大方針  
決定に際しては早目の通達方要請について

メタリ内地人婦女子二百十三名中明日大球丸ニテ引揚クヘキ本官及館員家族ヲ最後ニ殆ト全部又臺灣人婦女子六百十五名中大半引揚クル筈、當地ハ前記特殊ノ交通不便ヲ除キ大体ニ於テ特ニ形勢惡化セル次第第二ニアラス臺灣モ近キコトナレハ本月一杯形勢觀望、上海事件對日宣戰ノ見透シ付カハ弗々歸來スルニ至ルヘシ

(以下極秘)尙警備艦ニテハ万事海軍本位ニテ居留民保護ヲ理由ニ陸上ノ事ニ付焦リ又ハ主張ヲ固守スル等領事職務執行ト重複シテ困難カラス右ハ現下ノ如キ際特ニ南支方面ニ於テハ馬公トノ關係上甚シキヤニ感セラル御參考迄申添フ

公使、厦門、汕頭、廣東ニ轉電セリ

公使ヨリ上海ニ轉報アリタシ

445 昭和7年2月2日 在中国重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

雲陽丸の上海への下航につき南京總領事より請訓

上海 2月2日後発  
本省 2月3日前着

第五六號(至急)

本官發支宛電報第七號

上海事變ニ關聯スル當地ノ狀勢ニ付テハ累次ノ拙電ニテ御推察願ヒ居ル通り今日既ニ或程度以上惡化シ居ル次第第二ハ非サルモ上海ノ狀態此上長ク改善セス更ニ惡化ノ傾向モアルニ於テハ如何ニ本官ニ於テ今後トモ支那官憲トノ聯絡ヲ密ニシ「上海ハ上海、漢口ハ漢口」ト言フ態度ニテ事端ノ發生防止ニ努メ傍ラ居留民ニ訓達シテ徹底的ニ輕舉ヲ戒メ人心鎮靜ニ苦心ストモ結局次第々々ニ危機ヲ孕ミ遂ニ事變ノ當地方波及ニ迄擴大(其場合引揚其他ノ危險不便カ上海ノ比ニ非ラサル事申迄モ無シ)スヘキハ殆ト自然ノ數ナリヤニ愚考セラルル處本官トシテハ支那側並ニ第三國人側ニ對シ今日モ日本ハ當地ニ於テ決シテ進ンテ積極的行動ヲ執ルモノニ非ストノ印象ヲ出來得ル限り深く與フル事ヲ以テ適當ト認メ從テ現在ノ海軍力(宇治ノ外驅逐艦四隻ニシテ單ニ一時租界ヲ防禦スルニ在ルノミナル事ハ責任者ノ本官ニ洩シ居ル處ナリ)ヲ以テシテハ將來甚タ心許無シト存シツツモ既ニ本官ヨリ河用砲艦(驅逐艦以上ハ現今ノ減水振



リニテハ當地迄ノ通航困難ノ由)少クトモ三四隻ノ急派方ニ關シ閣下ノ御配意ヲ仰ク等ノ事ヲモ今以テ差控ヘ居ル次第ナルモ上海ニ於ケル支那人「ゼネラルストライキ」上海在留邦人全部ニ對スル總領事ノ引揚勸告、陸軍兵力約一師團ノ派遣等充分確カナラストハ言ヘ先以テ内地ノ「ラジオ」放送ニ依リ次々ニ當地ニ報道セラレ爲ニ人心刻々ニ不安ニ導カレ居ル有様ニテハ租界保護ニ關スル重大ナル責任上ノミナラス長沙、沙市、宜昌、九江等特別ノ措置ヲ要スル場合ニハ先本官ヨリ聯絡アルヘキ事ヲ期待シ居ル關係公館ニ對スル本官ノ立場上ヨリスルモ甚タシク困難ヲ感スル點有之殊ニ當地ハ從來排日ノ本場ナリトハ言ヘ今回ハ主トシテ上海ノ影響ニ依ルモノナル爲當方ニ於テハ現ニ内密備ヘヲ堅メ居ル事モ實ハ區々タル暴民ノ取締ニ非スシテ寧ロ此機會ニ共產黨其他ノ反動派ニ使喚セラレ若ハ中央政府ノ政策ノ下ニ動キ出スヘキ正規兵及便衣隊ノ襲撃ニ在リト考ヘ居ル趣ナルニモ鑑ミ今後上海南京方面ノ重要ナル狀態ノ變化ハ勿論帝國政府ニ於テ相當地區ノ保障占領、多數飛行機ヲ以テスル新方面ノ大爆撃陸軍部隊ノ派遣等急激ニ中央政府ノ政策ヲ變更セシメ當地ニ於テ迄突然事端發生ノ口實ヲ求

責任ヲ以テ司令部ニ打電ノ上駐在武官ヲ通シ本官ノ注意ヲ促シ來レル處本官ハ只今ハ夜半(一日午前一時)ノ事ニテモアリ居留民側ニ對シテハ夜カ明ケテ後適當ニ真相ヲ傳ヘ善處スヘシト答ヘ當地海軍ニ於テハ特ニ自重アリ度キ旨切望シ置ケルカ同時ニ差當リノ措置トシテ揚揆<sup>(楊カ)</sup>一ノ下ニ高井ヲ派シ南京ノ事件ヲ通報スル傍ラ直ニ同人ヨリ何成濬ニ電話シ且何ヨリ不取敢各方面ノ責任指揮官ニ對シ當地地方ニ於テハ本件ノ如キ輕卒ノ行爲ヲ絕對禁止スル様即刻嚴命方篤ト依頼セシメタルニ何成濬ハ恰モ不在ナリシ爲楊ヨリ綏靖公處ニ電話シ居合セタル朱<sup>デンケン</sup>參謀長ヨリ夫々關係ノ向ニ電話ニテ嚴達セルニ付安心アリ度キ旨返事ニ接セリ(尙其節楊ハ獅子山事件ハ思フニ決シテ蔣介石ノ意思ニ非スシテ寧ロ蔣ヲ苦シメトスル策謀ナルヘシト語レル由)然ルニ當地ノ狀態ハ只今ノ處大略往電第五五號及重光公使宛電報第七號(大臣宛第五六號)ニテ御判斷ヲ得ヘキ通りニテ今直ニ在留邦人ニ對シ引揚ノ勸告ハ勿論租界避難方ノ勸告ヲ爲ス事スラ少クトモ現在當地限りノ實狀ニハ充分副ハサルヤノ嫌アリト認ムルモ當地海軍責任者ノ意見モアリ萬一本省ニ於テモ此際早目ニ在留邦人ヲ引揚ケシムル方大局上適

メシムルカ如キ危險ヲ伴フ方策實行ノ御決定ニ際シテハ御差支無キ限りナル可ク早目ニ御通報給ハルト共ニ右御決定ノ重大性ニ應シ同時ニ當地ニ對スル充分ナル警備力補充方等ノ問題ヲモ篤ト御考慮煩ハシ度ク其邊夙ニ御賢慮ニ加ヘラレ居ル儀トハ察スルモ當地狀況報告補足旁勝手ヲ特ニ御願申上ク

大臣ヘ轉電セリ

447 昭和7年2月2日 在漢口坂根總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

上海の状況に伴い当地状況も不穏となりつつ  
あるところ邦人引揚げの要領などにつき請訓

漢口 2月2日前発  
本省 2月3日前着

第五七號(至急)

二月一日午後十一時十八分南京獅子山砲臺ヨリ帝國軍艦砲撃ヲ開始シ軍艦之二對シ反撃ヲ加ヘタル旨海軍側ニ入電アリタル趣ニテ中國驅逐隊司令ハ「當地人心ノ動搖甚シク在留民引揚ノ爲驅逐艦一隻ヲ海軍棧橋ニ横付けセル」旨直ニ

當ナリトノ御意見ナルニ於テハ其際ニ執ルヘキ本官ノ措置振要領ト併セテ其旨折返シ御電訓ノ上沙市宜昌等ノ關係モアリ現ニ停船ヲ命シ居ル襄陽丸一隻ニテハ甚タ不充分ニ付邦人避難用汽船二隻急派方同時ニ御詮議相成様致度シ支、南京、長沙、宜昌、九江、沙市ニ轉電セリ

448 昭和7年2月2日 在漢口坂根總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

南京砲撃事件の影響について

漢口 2月2日後発  
本省 2月19日後着(延着)

第六二號(至急)  
往電第五七號ニ關シ

今二日朝中田司令ヨリ本官ニ對シ其後司令官ヨリ漢口ニ於テハ特ニ支那側ト親善ノ關係ヲ保ツコトニ努力スヘキ旨命令アリタルニ依リ海軍トシテハ極力隱忍自重シテ當地ニテ事端ヲ生セシメサル様致シ度キ考ニテ且當地目下ノ情勢ハ漸次惡化シツツアルモ差當リ先ツ無事ナルヘシト觀測セラ

導アリタシト申出タルニ付本官モ至極結構ニ存スル旨ヲ述  
ヘ進テ種々ノ手配ニ關スル打合ヲモ遂ケタリ尙居留民側ハ  
今早朝本官ヨリ獅子山砲臺事件ヲ聞キ早速當地ニ於テモ主  
トシテ民團關係者十五名ヨリ成ル時局委員會ヲ作りテ對策  
ヲ協議スルコトナレルカ未タ直ニ内地ヘノ引揚等ヲ提議  
セントスルモノナキカ如シ右不取敢追報ス  
冒頭往電ノ通轉電セリ

449 昭和7年2月3日 芳沢外務大臣より  
在広東須磨總領事代理宛(電報)

上海の形勢は予断を許さないため華南方面に  
おける婦女子などの内地または台湾などへの  
引揚げ措置につき訓令

本省 2月3日後1時30分発

第九號

時局惡化ノ場合ニ於ケル貴地居留民ノ保護方ニ關シテハ既  
ニ御如才無ク御手配中ノコトトハ存スル處貴地方面ノ形勢  
ハ今日迄ノ處大体ニ於テ左迄急迫ノ模様ナキモ上海ノ形勢  
予断ヲ許ササルモノアリ何時急變スル無キヲ保セサルニ付

合第三六六號

本省 2月3日後9時50分発

時局ニ依ル貴地居留民保護ニ關シテハ既ニ御如才ナク御手  
配中トハ思考スルモ上海ノ形勢ハ豫断ヲ許サ、ルモノアリ  
情勢ニ依リテハ居留民及貴館員全部ノ引揚ヲ行フノ必要モ  
起ルヘキニ付手足纏トナルヘキ婦女子ハ早キニ臨ンデ引揚  
ケシメ置クコト必要ナルヘク貴館並在留民全部ノ引揚ノ已  
ム無キニ至リタル場合ニハ本大臣發漢口宛電報第七号ノ趣  
旨ニ依ル漢口ノ現地保護ニ累ヲ及ホサル範圍内ニ於テ希  
望ノモノハ同地ニ留メ他ハ下航セシメラレ度尤モ右ノ措置  
実行ノ時期ニ關シテハ警備艦側トモ充分連絡ノ上情況ノ判  
断ヲ誤ラサル様善處セラレタシ  
公使、上海、南京、漢口ヘ轉電セリ

451 昭和7年2月3日 芳沢外務大臣より  
在漢口坂根總領事宛(電報)

上海の形勢は予断を許さないため婦女子等の  
早目の上海または内地への引揚げにつき検討  
方訓令

其ノ場合ニ處シテ遺憾無キヲ期スル爲メニハ婦女子其他手  
足纏ヒトナルヘキ分子ハ御見込ニ依リ成ルヘク早目ニ内地  
又ハ臺灣等ヘ引揚ケシムル方得策ナリト認メラル又居留民  
全部ノ引揚ノ已ムヲ得サルニ立到リタル場合ニ於テモ手落  
無キ様警備艦側トモ連絡ヲ密ニシテ豫メ必要ノ用意ヲ整ヘ  
置カレ狀況ノ推移ニ應シ機宜ノ措置ヲ執ラルル様致度シ尙  
引揚實行ノ場合ノ船繰其他ノ援助方ニ關シテハ別電第五號  
ノ通り臺灣總督ニ依頼シ置ケルニ付右御含ノ上必要ニ應シ  
貴方ヨリ直接同府當局ニ交渉セラレ度シ  
訓令トシテ福州、厦門、汕頭ニ轉電アリ度  
上海ヨリ公使、南京ヘ轉報セシム  
上海、香港、臺灣總督ニ轉電セリ

450 昭和7年2月3日

芳沢外務大臣より  
在九江西田(長康)領事館事務代理、  
在長沙糟谷(廉二)領事、在宜昌浦川  
(昌義)領事代理、在沙市浦和(四郎)  
領事館事務代理宛(電報)

上海の状況は予断を許さないため婦女子など  
の早期引揚げ手配方訓令

本省 2月3日後10時30分発

第七號

上海ノ形勢ハ豫断ヲ許ササルモノ有リ各地居留民保護ニ關  
スル非常措置ニ付夫々配意ヲ要スル時機ニ立到レルモノト  
認メラルル處貴地ニ付テハ上流各地ヨリノ避難及租界防衛  
ノ關係モアリ海軍力ヲ以テスル現地保護ノ方針ニ依ル外無  
シト存スルモ萬一ノ場合ニ處スル爲婦女子其他手足纏トモ  
ナルヘキ分子ハ早キニ臨ンテ上海又ハ内地ヘ引揚ケシメ置  
クコト肝要カト認メラルルニ付昭和二年引揚當時ノ經驗ニ  
鑑ミ混雜及手違等ヲ避クル爲船繰及護衛等ニ付テハ上海及  
警備艦側トモ充分ノ連絡ヲ執ラレタル上遺算無キ様豫メ配  
慮セラルルト共ニ引揚ノ實行等ニ付情況ノ判断ヲ誤ラサル  
様善處セラレ度シ  
公使、九江、南京、上海ヘ轉電セリ  
長沙、宜昌、沙市ニ轉電アリ度シ

452 昭和7年2月3日

在福州田村總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

民心動揺防止の観点から婦女子引揚げ見合せ

方中国側要望について

福州 2月3日前発  
本省 2月3日後着

第五三號

往電第五二號ノ通り婦女引揚ハ海口ニアラサル當地特殊ノ事情ニ依リ「プレコウショナリ、メジュア」トシテ行ハシメタル(カ)支那側ニテハ時局柄人心動搖事態悪化ノ虞アリ不安心ナレハ如何ナル警備方法ヲモ講スヘク且中央要人等ヨリノ私電ニ依ルモ上海事件擴大防止ノ希望ニテ萬宣戰ノ如キコトニハ至ラサルヘク萬一然ル場合ニモ國際法規ニ從ヒ居留民ノ安全引揚方責任ヲ以テ保障スヘシトテ殆ト懇請的ニ申出テ午后又方聲濤、林知淵連立チテ同様繰返シタルニ付本官ハ省政府當局ノ意ノアル所ハ充分了解シ當地ノミノ事情トシテハ何等不安ヲ感シテノコトニアラサルモ警備艦側ノ報告ニ依レハ上海ノ事態俄カニ好轉ノ模様ナク洛陽遷都ニ件ヒ對日宣戰說等ハ水戸事件以來神經過敏トナリ居ル在留民ヲ刺戟シ又艦長等ニ對スル暴行事件當時戒嚴司令公安局長カ全力ヲ盡スモ約六時間ニ亘リテ門前ノ群衆ヲ追拂ヒ得ス爲ニ本官等カ六時間ノ長キニ亘リ歸館シ得サリシ

第八〇號

南京發本使宛電報

第九九號

上海 2月3日後発  
本省 2月4日前着

一、二日未明海軍警備隊日清「ハルク」ヨリ引揚ケタル處同日午前九時頃迄ノ間ニ於テ「ハルク」ハ大部分掠奪セラレ留置セル當館用其他ノ自動車四台モ破壊セラレタリ然ルニ正午近クニ警察廳ノ代表者「ハルク」ニ來訪セルニ依リ館員ニ於テ掠奪ノ模様及水兵負傷ノ現場等ヲ檢分セシメタル上警告セシメ置キタリ

二、一日夜ノ事件ニ付テハ二日早朝公使館覺書ヲ以テ外交部ニ抗議シ(發送ノ方法ナキニ依リ米國軍艦ヨリ米國總領事ニ轉送シ同總領事ヲシテ外交部ニ送付方依頼セリ)尙後刻「ハルク」ノ電話ヲ利用シ館員ヨリ直接谷正倫ニ事態ヲ説明シ今後ノ治安維持、挑發行爲其他取締方要求セリ

尤モ谷ハ一日夜ノ事件ニ於テ獅子山ヨリ發砲セル事實絶對ニナキ旨主張シ居タル由

三、雲陽丸ノ支那人下級船員ハ甚タシク恐怖心ヲ抱キ居ルニ

最新ノ記憶モアリ萬一暴動等ノ際支那側軍警カ敵國人ヲ保護スル爲ニ自國群集ヲ相手トスヘシトモ考ヘラレス結局今暫ク事態ノ推移見定メノ付ク迄一衣帶水ノ臺灣迄家族ヲ引揚ケ置キ男子ノミ家族ノ心配ナク落着キテ業務ニ當ラシムルコト在留民ノ精神的安定上望マシトノ希望ヲモ容レタル次第ニ付一般民衆側ニ對シテハ我方ニ何等異圖アル次第ニアサル旨篤ト説明シ双方人心ノ安定策ヲ講セラレタシト申入レタルニ了解セリトテ引取りタルカ市民中ニハ本官モ引揚ケヘシトノ噂アリ萬一然ル場合ニハ先般來ノ事件ニテ本官カ折角斡旋事ナキヲ得タルカ後ハ如何ナルヘキヤ等ト相當神經ヲ病ミ居レリトノ情報アリトテ米國領事訪ネ來タリタルニ付事情説明シ置キタリ御參考迄

在支公使、廣東、汕頭、厦門ヘ轉電セリ

在支公使ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

453 昭和7年2月3日

在中国重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

日清汽船ハルク掠奪事件発生および谷司令に  
治安維持方申入れについて

加ヘ同船間近カノ浦口江岸ニ塹壕等ノ構築ヲ開始セル爲一層動搖シ逃亡ノ虞アリ警戒中

四、前項浦口江岸ノ敵對行爲阻止及支那軍隊撤去方ハ直ニ本官ヨリ外交(部)、憲兵、司令、警察廳長ニ嚴重要求スルト共ニ米國總領事ニモ通報シ置キタリ

五、領事館ハ未タ掠奪ヲ受ケタル模様ナキ由館員及在留民ハ全部雲陽丸ニアリ無事

(本電當方ヨリ聯盟、米、北平、奉天、廣東ヘ轉電セリ)

一、大臣ヘ轉電アリタシ

454 昭和7年2月4日

在濟南西田(畊一)總領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

邦人保護に関する民団などへの措置について

濟南 2月4日後発  
本省 2月5日後着

第三九號

閣下發青島宛電報第一〇號ニ關シ

從來トモ當地ニ於テハ本官ハ中國側當局ト聯絡シ排日ヲ嚴重取締ラシメ我居留民ニ對シテハ自重シテ紛擾ヲ未然ニ防

ク様時々訓示シ居リ居留民モ亦濟南事件ノ苦キ經驗ニ顧ミ大體ニ於テ自重セルモ最近事件ノ發生ニ刺戟セラレタルト國交斷絶宣戰布告ノ報道傳ハレルヨリ杞憂ヲ懷ク者アリ甚タシキニ至リテハ避難又ハ出兵請願等ヲ内々協議スル者モアルニ依リ本官去ル二日民團行政委員會及時局委員會等ノ首腦者ヲ招致シ現下ノ山東ノ情勢ヲ述ヘ韓主席ニ於テモ山東ノ治安維持外國人特ニ邦人ノ生命財産ノ保護ニ努ムヘキ旨ヲ聲明シ之ヲ實行シ來リ且最近ニモ時局ノ如何ニ拘ハラス從來ノ態度ヲ變セサル旨言明シ居レル次第今日迄ノ平穩ナル山東ノ事態ニ鑑ミ本官トシテハ此ノ際出來得ル限リ支那側ト聯絡協調シ中央紛擾ノ山東ニ波及セサル様善處シツツアル次第ヲ篤ト説明スルト共ニ各自自重シテ生業ニ安スル様説示シ置キタルニ民團ニ於テハ三日附ヲ以テ居留民ニ對シ大要前述意味合ノ通告書(通告書郵送ス)ヲ發シタル處大體安堵セル模様ナリ

尙本四日ノ山東新報ハ本官ノ談トシテ右大要ヲ掲載シ又省黨部機關紙山東民國日報モ本官在留民ニ對シ説示シタル大要ヲ特筆シ人心ノ緩和ニ努メツツアリ

目下ノ所當地別段ノ動搖ナシ

ニ問題ノ起ルコトヲ絕對ニ好マレサル次第ナルニ於テハ至急支那各地ニ在ル當該本邦官憲全部ニ對シ此ノ際事態ヲ靜觀シ且ツ自重シテナルヘク支那側ト事ヲ構ヘサル様努力シ常ニ當該地我外務官憲ト密接且ツ腹藏ナキ聯絡ヲ取り萬々一或ル種ノ事件發生シ過激ノ行動ニ出ツルコトヲ絕對必要トスルカ如キ場合ニモ豫メ事前ニ政府ニ請訓スルヲ要スル旨並ニ各地官憲ハ常ニ居留民ニ對シ自重方勸告シ感情ノ緩和ニ努ムル要アル旨嚴重訓令發出方御配慮仰キ度シ

公使ニ轉電セリ

456 昭和7年2月5日 在南京上村領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

# 日清汽船ハルク掠奪事件損害賠償金の中国側

## 支払について

南京 2月5日後発  
本省 2月7日前着

第一二二號  
往電第一一四號ニ關シ

其後本官ヨリ主トシテ王俊ニ對シ此ノ際至急「ハルク」掠

支、北平、青島、天津、芝罘、博山、張店、坊子ニ暗送セリ

455 昭和7年2月5日 在中国矢野大使館參事官より  
芳沢外務大臣宛(電報)

# 上海事変悪化に伴い地方における不測の事態 勃発防止のため出先官憲に訓令方意見具申

北平 2月5日後発  
本省 2月6日前着

## 第六〇號(部外絶對極秘)

上海事件惡化ニ伴ヒ支那側各方面ニ於テ多大ノ衝動ヲ受ケ居ルハ勿論ナルカ他方各地在留日本人ノ感情モ漸次激化ノ模様ニテ此ノ儘推移スルニ於テハ或ハ上海以外ノ土地ニ於テモ不測ノ事變勃發ノ虞ナキヲ保シ難キ様見受ケラレ現ニ當地居留民一部ノ空氣ニ顧ミルモ此ノ種ノ懸念全然ナシトハ云フヲ得サルカ如シ然ルニ萬々一上海以外ノ地方ニ於テ何等事件勃發センカ其原因理由ノ如何ニ拘ラス列國ノ我方ニ對スル空氣ヲ更ニ惡化セシメ延イテ滿洲問題ノ解決ニ惡影響ヲ及ホス虞鮮カラサルヘシ就テハ政府ニ於テ他ノ地方

奪ノ損害賠償ヲナシ誠意ヲ示サレタキ旨説得ニ努メ王モ責任ヲ以テ引受ケタルニ依リ五日午前王ニ對シ損害明細表(計銀三千六百五十二弗八十仙但シ自動車ノ破損ハ修理ヲ全部支那側ニ於テ引受ケタルニ依リ金錢ヲ要セス)ヲ手交セル處同日午後王再度來訪シ當方要求通りノ賠償金ヲ持參セリ

右ニテ賠償問題ハ自動車ノ修理ヲ除キ事實上全部解決シタル次第ナルカ先方ノ希望モアリ出來得レハ暫ク公表セサル様御考慮アリタシ

北平ヨリ大臣ヘ轉電ヲ請フ

公使、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東ニ轉電セリ

457 昭和7年2月5日 在南京上村領事より  
芳沢外務大臣宛(電報)

# 上海における日本陸戦隊による中国市民への 暴行に關し外交部長抗議申越しについて

南京 2月5日後発  
本省 2月8日前着

第一二六號

本官發在支公使宛電報第一二二號(五日後)

外交部長ヨリ貴公使宛五日附公文ヲ以テ大要左ノ通申越セリ

上海市府ノ電報ニ依レハ日本陸戰隊ハ共同租界ノ一部及租界外道路間北其他ニ於テ支那市民ヲ逮捕私刑ニ處シ又ハ殺戮シ現ニ監禁中ノモノスラ百人ニ達スル趣ナルカ右ハ國際公法ヲ無視セルモノナルノミナラス人道ニ反スルモノナルヲ以テ嚴重抗議ヲ提出ス貴公使ヨリ速ニ艦隊司令官ヲシテ逮捕捕市民ヲ釋放スルト共ニ犯人ヲ處罰セシメラレタク尙何分ノ儀御同示相成タシ

(北平ヨリ大臣へ轉電アリタシ(第一二六號))

大臣、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

458 昭和7年2月5日

在濟南西田總領事より  
芳沢外務大臣宛

上海事變の展開に伴う山東方面の危機を想定し居留民保護方に関し意見上申

ルコト無キヤモ計リ難カルヘク

三、萬一中央ニ於テ國交斷絶乃至對日宣戰ヲ布告スルカ如キ非常ノ場合ニ於テモ韓ハ同人ノ本官ニ對スル言明並今日迄ノ態度及實行力ニ鑑ミ直ニ態度ヲ一變シ當地方ヲ混亂ニ導クカ如キ舉措ニ出ツヘシトハ思考セラレス故ニ韓ノ山東省<sup>(主カ)</sup>首席タル以上ハ兩國ノ關係危殆ニ瀕ストモ大体现狀維持セラルヘキモ最惡ノ場合ニ想到セハ時局ニ依リ韓ノ地位ニ變化ヲ來スカ韓ノ態度ニ嫌ラサル者ハ種々策動ヲ試ミ又ハ中國各地ノ情勢ハ山東ノミヲ平穩ノ儘經過セシメサル狀態トナリ反日的氣分横溢シ其ノ間黨部學生等愛國運動ニ藉口シ人心ヲ刺戟<sup>(刺カ)</sup>シテ紛糾ヲ惹起スルニ於テハ韓トシテハ從來累次ノ聲明ニ反スルノ意無シトスルモ實際上輿論ノ趨向ニ順應スヘク餘儀無クセラルル場合ニ立至リ其ノ結果在留邦人ニ不安ノ念ヲ懷カシムル事態發生スルコト無キヲ保シ難シ

三、右ノ場合地方的ニ發生スル事故ニ對シテハ局部的ニ然ルヘク解決ニ努力スヘキハ勿論ナルモ事態愈擴大シ紛擾惹起スル場合ニ至ラハ(例へハ濟南ニ事件起ルカ又ハ濟南ハ平穩トスルモ青島又ハ膠濟沿線ニテ事件勃發シ之ヲ急

機密第五四號

(2月15日接受)

昭和七年二月五日

在濟南

總領事 西田 畊一(印)

外務大臣 芳澤 謙吉殿

時局ニ關シ居留民保護方請訓ノ件

韓主席ノ時局ニ關スル態度ニ付テハ往電第三五號ノ通ニシテ新聞紙上ニモ其ノ態度ノ一端ヲ發表シ(往電第三六號參照)今後特別ノ事情發生セサル限り現狀ヲ維持スヘシト思考セラルル處

一、上海事件ハ今後如何ニ發展スヘキカ又洛陽ニ辦公署ヲ移轉セル中央政府ハ如何ナル對日態度ニ出ツルヤハ逆睹シ難キ所ニシテ蔣介石一派トシテハ國交斷絶對日宣戰等ニ依ラス事態ヲ遷延シ聯盟及米國等ニ縋リ又ハ其ノ干涉等ト相俟テ日本ノ疲ルルニ乘シ徐ニ事態ヲ收拾セン意圖ヲ有スルカ如キモ對内的關係相當複雜ニシテ蔣等ノ意思通政策ヲ實行シ得ス黨部學生又ハ反蔣派ハ強硬的態度ヲ以テ蔣ニ迫リ又共產黨カ種々策動スル場合ニハ飽ク迄押切り得ス已ム無ク中日國交斷絶乃至宣戰布告等ノ舉ニ出ツ

ニ收拾シ難キ等ノ場合(假令中國側ニテ保護ヲ聲明スト雖之ニ依頼スルコトヲ得サル事態ニ至ランカ當地方ハ中國他處ノ主要都市ノ如ク軍艦等ノ海軍力ニ依ル保護ハ望ミナキニ付避難引揚カ又ハ出兵ニ依ル現地保護ノ二方法ニ依ルノ外ナキ處而モ當地ニハ約二千名ノ邦人居住シ多年地盤ヲ築キシモノ相當アリ沿線地方ニハ約一千名ノ邦人アリ魯大公司ヲ始メ鑛山關係者モ散在シ且山東條約ニ基ク權益關係等ニモ顧ミ國策上山東地方ヲ顧念スル違ナキ場合ハ兎モ角然ラサル場合ハ在留民ノ引揚等ハ頗ル困難ニシテ且現狀回復至難ナル事情アルニ鑑ミ出來得ヘクンハ實力ニ依リ現地ニ於テ保護スル方針ヲ講スルコト緊要ナリト思考セラルル處

四、右現地保護ハ前二回ノ山東出兵當時トハ事情ヲ異ニシ我出兵ハ中國側トシテハ直接ノ敵對行為ノ如ク看做スヘキ關係上容易ニ實行シ難カルヘク殊ニ韓カ今日迄我方ニ好意的態度ヲ持シ種々ナル反對ヲ押切り之ヲ實行シ來リタルハ畢竟表面ハ兎モ角内情ハ國民黨ノ統治能力ノ前途望ミナキヲ觀破シ廣東派ハ勿論蔣介石又ハ張學良ノ當テニナラサルヲ知ルモ目下ノ情勢ニ鑑ミ中央政府ニ對シ表面

第一〇三號  
 九江發本官宛電報  
 第一〇號

上海 2月6日前発  
 本省 2月6日前着

459

昭和7年2月6日 在中国重光公使より  
 芳沢外務大臣宛(電報)

南京砲撃事件当夜の状況に関する情報などに  
 つき九江領事報告転達

拂ヒ極力善處スヘキハ勿論ナルカ事態擴大シ收拾シ難キ情勢ニ至ル場合ニハ山東出兵等ノ問題擡頭シ之ヲ請願スル者發生スルニ至ルヘシト思考セラルル處右事態惡化ニ伴フ當方面ノ危機ニ瀕スルニ至リタル際之カ措置方ニ付請訓スルニ於テハ或ハ時機ヲ失スルカ如キ虞モアルニ付本件豫メ御考慮ノ上政府ノ御方針御回訓相仰キ度ク尙本件ニ付本官ノ心得フヘキ事項アラハ何分ノ儀併セテ御指示ヲ請フ

右卑見報告旁々請訓ス

服從シ蔣ヲ擁護シツツアルモ内實ハ不即不離ノ態度ニテ現ニ醞釀シツツアル反國民黨派ニモ氣脈ヲ通シ先ツ山東ニ強固ナル地盤ヲ造リ時機ニ乗セン底意アルヨリ山東ニ關スル限り日支紛糾事件ヲ發生セシメス中日關係ヲ良好ニシ日本ヲシテ口實ナカラシメ山東出兵ヲ未然ニ防止セン考ニ出テ居ルモノノ如キニ付萬一ニモ日本山東ニ出兵セハ韓ノ面目ニモ關係シ之ニ正當ナル理由ナクシテ諒解ヲ與ヘ又ハ何等ノ抵抗ナク日本軍ヲ山東ニ進出セシメハ國賊トナルヲ以テ特別ナル理由ナキ限り或程度ノ戰事ハ避ケ難ク斯クシテ目下對支貿易上唯一ノ地域タル山東ノ貿易ハ杜絶シ濟南事件ノ苦キ經驗以上ノ事態ヲ惹起シ最惡ノ場合ニハ濟南及沿線邦人ノ全滅ヲ豫想セサルヘカラス

殊ニ日本トシテハ閣下發上海宛電報第一一號ノ御訓令ニ顧ミルモ滿洲事變ノ解決ヲ最モ緊要トスル際支那本部ノ各地ニ紛擾ヲ惹起シ之ヲ擴大スルハ對外關係上及對内殊ニ財政關係ヨリスルモ得策ニ非スト思考セラル餘程重大ナル事變發生スルニ非サレハ山東出兵ハ國策上實行シ難キモノト認メラルルニ付出來得ル限り出兵等ヲ爲サスシ

テ情勢ノ推移ニ依リ善處シ時局ヲ切抜クルノ要アルモノト思考ス

五、一方當地方邦人ハ濟南事件以來ノ動亂ニ經驗ヲ有シ且滿洲事變以來モ山東方面大体平穩ナルヨリ各自自重生業ニ從事セルモ最近上海事件ニ依リ相當刺戟セラレ國都ノ洛陽移轉中央ノ對日國交斷絶宣戰布告等ノ報傳ハルヤ神經過敏トナリ不安ヲ感シ内々避難或ハ出兵請願等ヲ申出ツル者アリ當館ニ萬一時局ノ影響山東ニ波及スル場合ノ措置ニ付問合ス者アリシヲ以テ本月三日行政委員會及時局委員會正副會長ヲ招致シ本官ヨリ中國ノ時局及山東ノ情勢ヲ説明シ各自安心シテ業務ニ從事スヘキ旨ヲ述ヘ置キ(當地中野駐在武官ヨリモ清水行政委員長等ニ對シ山東ノ時局ハ目下ノ處心配ノ要ナキ旨ヲ説明シ置ケリ)行政委員會ヨリハ右ノ次第在留邦人ニ通知シ置キタリ(往電第三九號參照)

六、右ノ如キ次第ニ付本官トシテハ現在ハ兎モ角今後ノ情勢如何ニ依リ時局擴大スルカ如キ場合ニモ原則トシテ出來得ル限り現地ニ止マリ其地方的發生事件ニ對シテハ中國側ト折衝シテ之カ解決ニ努メ時局ノ推移ニ細心ノ注意ヲ

大臣へ轉電アリ度シ

第一二號

時局ニ關スル當地情報左ノ通

一、諸新聞ハ依然大ナル見出ヲ附シ上海南京兩事件ヲ報道シ居レル處何レモ虛構誇大ノ記事ニシテ相當人心ヲ刺戟シツツアルモノノ如シ

二、昨夜小官ノ知人來訪シ南京發砲事件ニ關スル支那側情報トシテ語ル處ニ依レハ一日夜王均ノ軍隊カ浦口ヨリ南京ニ渡江セントシタル處日本軍艦ノ阻止ニ遭ヒタルカ王軍力之ヲ聽入レス渡江ヲ敢行セントシタル爲遂ニ日本側ヨリ射撃セラレタル次第ナルカ獅子山砲台ニ於テハ右ハ日本側カ南京市街ヲ砲撃シタルモノト誤認シ應射シタルモノニシテ一般支那人ハ之ヲ眞實ト思考シ居レリ云々

三、在留邦人中婦女子ハ依然軍艦男子ハ日清ヘ收容中ナルカ日清汽船ハ上下船トモ不通トナリ軍艦熱海ハ收容力少キニヨリ漢口總領事ニ依頼シ日清汽船檣丸ノ急航方ノ手配ヲ了ヘタルカ同船ハ本日夕刻到着ノ筈ニ付出來得ル限り急速避難セシムル筈

四、在留邦人當地引揚ノ報市内ニ傳ハルヤ早クモ日本軍艦ハ

側ニ於テモ在泊軍艦ヲ減シ以テ支那街砲撃ノ意圖ナキコトヲ實證スルノ適切ナルヲ認メ本日未明勢多ヲ大治ニ出帆セシメタリト述ヘタル處警備司令ハ稍安堵ノ面持ニテ夫レハ誠ニ結構ナル措置ニシテ貴方カヨク當地ノ事情及弊司令ノ苦衷ヲ諒察シ積極的ニ謠言芟除ニ努力セラルルハ感謝ニ堪ヘス市民モ日本側ノ態度ニ満足シ安心シテ元旦ヲ迎ヘ得ヘシト述ヘタルカ次イテ保津艦長ヨリ海軍側ノ態度ヲ説明シタル上九江ノ如キ小都市ヲ砲撃シ何ノ利益アリヤト述ヘタル司令ハ至極同感ナリ自分ハ最初ヨリ上海事件ハ同地ノミノ局地的事件トシテ解決シ當地方ニ擴大セシメサル方針ノ下ニ貴國民保護並ニ當地ノ治安維持ニ全力ヲ注ギ來レル次第ナルカ要スルニ東洋ヲ知ル者ハ東洋人ニシテ東洋ハ東洋人ニテ治メサルヘカラス僅ノ誤解ニ依リ貴我兩國事端ヲ繁クシ虎視眈々タル歐米人ニ魔手延長ノ機會ヲ與フルハ誠ニ遺憾ナリ希クハ此ノ上双方聯絡ヲ取り先日來險惡ナリシ空氣ヲ後日ノ笑話トナス様努力シ度シト述ヘ會見約一時間ニ亘リ歛談ヲ交ヘ辭去シタルカ小官ノ見ル所ヲ以テセハ本日ノ會見ニテ双方トモ完全ニ意思ノ疏通ヲ計リ得タリト思考スル處艦長側モ亦頗ル満足ノ体ニテ此ノ分ナレハ在留民

在留民ヲ引揚ケシメ然ル後支那市街ヲ砲撃スヘシトノ謠言流布セラレ小官知人(警備司令ノ依頼ニ由ルモノト思考セララル筋アリ)右實否確カメノ爲來訪シタルニ付小官ハ支那側ヨリ發砲セサル限り斷シテ日本側ヨリ發砲スルコトナキ旨並兩國民トモ昂奮狀態ニアル今日右ノ如キ謠言ニ依リ不測ノ事故突發スルコトナキヲ保シ難キニ付支那側ニテスル謠言ヲ嚴重取締ラルル様傳言方依頼シ置キタリ  
 其曩ニ上海事件勃發シ同地諸銀行カ一時閉鎖シタル際當地ニ於テ殆ト全部ヲ占ムル上海發行紙幣ノ流通不可能トナリ舊年末ヲ控エ金融界ハ異常ノ混亂ヲ呈セリ茲ニ於テ省政府ハ上海諸銀行カ既ニ營業ヲ開始シタル旨並若シ紙幣ノ受入レヲ拒絕スルモノアルトキハ銃殺ニ處スル旨ノ布告ヲ發シタリ  
 六省政府主席熊式輝及九江警備司令其他ハ小官ヨリ發送シタル本邦人保護方要求ノ書翰ニ對シ何レモ嚴重保護スヘキ旨ノ公文ヲ送付シ來レルカ邦人住宅區域ニハ正服、私服ノ軍警ヲ多數増派シ保護シツツアリ  
 七軍艦保津ハ本日、勢多ハ明日入港ノ筈  
 上海ヘ轉報アリタシ

漢口、南京、長沙ヘ轉電セリ

460 昭和7年2月6日 在漢口坂根總領事より  
 芳沢外務大臣宛(電報)

九江居留民引揚げ中止および在泊軍艦削減につき九江警備司令に通告について

漢口 2月6日後発  
 本省 2月6日後着

第七九號

九江發本官宛電報第一一號

本官發漢口宛電報第一八號

大臣ニ轉電アリタシ

第一五號

往電第一四號ニ關シ

小官本日保津艦長等ト共ニ九江警備司令ヲ往訪シ先ツ小官ヨリ當地市民カ何等根據ナキ謠言ニ脅サレ不安裡ニ舊曆元旦ヲ迎ヘラルルコトハ御氣ノ毒ニ堪ヘス小官ハ此ノ際我方ヨリ進ンテ謠言ノ芟除ニ努ムルコト事宜ニ適スト認メタルヲ以テ既ニ決定シタルニ在留民ノ引揚げヲ中止シタルカ海軍

ハ引揚げノ必要ナカルヘシトノ意見ニ一致セリ御參考迄支ヘ轉電アリタシ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

長沙ニ轉電セリ

461 昭和7年2月6日 在南京上村總領事代理より  
 芳沢外務大臣宛(電報)

南京における我が軍艦砲撃事件の実情について

南京 2月6日後発  
 本省 2月8日前着

第一三四號(極秘扱)

一日夜ノ事件ハ海軍ノ電報ニ依リ御承知ノ通ナルカ實情左ノ通り

「本官等乗船ノ雲陽丸ハ一日夜モ「ハルク」ニ横着ケシアリタルカ午後十一時突然引續キ二回ノ爆裂彈破裂ノ如キ音ヲ聞キ續イテ小銃ノ發射アリ同時ニ雲陽丸上ノ海軍通信兵ノ「哨兵カヤラレタ」ト叫フ聲ヲ聞キタルカ數分ノ後我方軍艦ヨリ發砲シ又「ハルク」上ノ警戒隊ヨリハ機關銃ヲ發射シ始メ同時ニ雲陽丸ハ錨ヲ抜キ上流ニ避難セリ我方ノ發

砲ヲ聞クヤ外國軍艦モ一齋ニ消燈至急旋回ヲ始メタリ  
ニ道路ヨリ「ハルク」ニ通スル棧橋上ニハ手榴彈ノ破裂シ  
タリト見ラルル根跡歴然トシテ残り血痕モ亦著シク残り居  
ルヨリ何者カ「ハルク」前ノ道路上ヨリ手榴彈ヲ投ケ右カ  
哨兵ノ足許ニ破裂シタルモノト思ハル(哨兵一名ハ脚部ニ  
重傷ヲ負ヒ出血多量ノ爲ニ夜死亡セリ他ノ哨兵ハ輕傷ニ  
テ右ハ手榴彈ノ破片ニ依ルモノト思ハル外ニ輕傷ニアリ)

ニ犯人ハ一人ナリヤ多數ナリヤ充分明カナラサルカ「ハ  
ルク」警戒隊ハ雲陽丸引揚後「ハルク」ヲ撤退ノ際敵ヨリ襲  
撃セラルルヲ惧レ居タルモ犯人ハ逸早く逃亡シタルモノ  
如ク敵ヨリノ襲撃等全ク無カリシ趣ナリ(手榴彈投擲犯人  
ノ後方ニ相當ノ人數アリ小銃ノ速射ヲ爲シタリトノ説アリ  
要スルニ突差ノ間ノ出來事ナリシ爲各人ノ記憶明確ナラス)  
四我軍艦ヨリノ發砲ハ十發ナリシ趣ナルモ慙ト市街ニ落下  
スルヲ避ケタルニ依リ實害ナカリシ模様ナリ  
五獅子山ヨリノ發砲ハ我軍艦ニテハ確ニ目撃セリト主張シ  
居レリ  
北平ヨリ大臣ヘ轉電アリタシ  
支、北平ヘ轉電セリ

462 昭和7年2月7日 在上海村井總領事より  
芳沢外務大臣宛電報)

陸兵派遣につき英、米、仏總領事等へ通知に  
ついて

上海 2月7日後発  
本省 2月7日後着

#### 第二五四號

貴電第五五號ニ關シ

陸兵派遣ノ決定ハ外字紙ニ報道アリ茲一兩日中ニ實現ノコ  
トモ各國側ニテ感知シ居リタル模様ナル處六日陸軍武官及  
海軍側ヘノ來電モアリ六日ノ領事團會議後英、米、佛總領  
事ヨリノ質問ニ對シ多分明七日到着ノコトナルヘキ旨話  
シ置キタリ

七日朝海軍側ヨリ海陸共同ニテ吳淞攻略ニ決定シタルニ付  
右ノ旨工部局及關係國領事ニ通知シ吳淞居住關係各國人避  
難勸告方取計アリタキ旨申出アリタルニ付直ニ英、米、佛、  
伊、獨逸及丁抹領事並ニ工部局ヘ電話通知シ置キタリ尙午  
後本官英、米、佛、伊總領事ヲ往訪シ帝國政府聲明書ヲ手

交シ説明ヲ加ヘ置ケリ各國先任指揮官ヘハ海軍側ヨリ直接  
通知セリ陸兵派遣ノコトハ今後モ機會アル毎ニ口頭ニテ關  
係ノ向ヘ説明シ置クヘク且今回ハ吳淞上陸ノ趣ナルニ付工  
部局ヘノ公文通知ハ陸海軍側トモ相談ノ上差當リ見合セ居  
レリ  
支ヘ轉報セリ

463 昭和7年2月7日 在南京上村總領事代理より  
芳沢外務大臣宛電報)

杭州領事館員の南京への引揚げ状況に関する  
米内山領事談について

南京 2月7日後発  
本省 2月7日後着

#### 第四〇號

往電第一三七號及往電第一三九號ニ關シ  
一、米内山領事ノ談ニ依レハ杭州領事館ノ周圍ハ上海事件突  
發ノ翌日ヨリ支那側保安隊ノ爲ニ嚴重ニ包圍セラレ銃口ヲ  
擬シテ館員ノ外出ヲ阻止セル爲同館々員ハ全然監禁狀態ニ  
至リ引揚ヲモ許サレサル有様ナリシヲ以テ同領事ハ右ノ次

第上海南京ニモ電報シ同地支那側トモ交渉シタルカ埒明カ  
サリシカ五日午後五時頃突然市政府ヨリ明朝六時杭州發自  
動車ニテ南京外交部ニ送り届クヘキ旨ノ通知アリタルニ依  
リ翌六日朝同領事以下領事館ヲ出テントスルヤ警戒中ノ保  
安隊ノ爲又復阻止セラレ已ムヲ得ス市政府ニ電話ヲ以テ訴  
ヘタル結果市政府ヨリ秘書一名市政府ノ自動車ニテ出迎ニ  
來リ之ニ同乗シテ漸ク市政府ニ至リ市長ノ斡旋ニ依リ午前  
九時半(六時ハ誤リ)市政府前ヨリ自動車ニテ出發南京ニ向  
ヒタルモノナルカ杭州ヨリハ途中護衛ノ爲憲兵ノ外市政府  
職員二名同車セル趣ナリ

ニ當方ニテハ外交部ヨリ一行杭州發ノ報ヲ受クルヤ直ニ外  
交部及憲兵司令ニ對シ途中警戒方依頼シタル處直ニ手配シ  
タルモノト見ヘ憲兵司令部ヨリハ午後六時自。容ヲ通過午後  
八時湯山通過ノ旨一々當方ニ電話ニテ通報シ同時ニ當方ト  
ノ打合ニ從ヒ憲兵司令部營長徐。當館々員ヲ出迎ニ來レルヲ  
以テ館員ハ右徐ト共ニ外交部ニ至リ待受ケタル處杭州ヨリ  
ノ一行ハ午後九時半外交部ニ無事到着茶菓ノ持成ヲ受ケタ  
ル上十時雲陽丸ニ引揚ケタリ  
ニ最近杭州ヨリノ電報ハ殆ト當館ニ來ラス事情一切不明ナ



リシカ外交部ヨリ杭州市政府ニ照會ノ結果同市政府ヨリハ外交部ニ對シ日本官民ハ全部上海ニ引揚げタル旨ノ同電アリタル趣五日朝本官ニ報告シ來レルニ依リ(公使宛往電第一一五號參照)其ノ際本官ハ如何ナル經路ニ依リ上海ニ赴ケルモノナリヤ爲念今一應杭州ニ問合セアリ度キ旨申置キタル次第アリ然ルニ前記(一)米内山領事談ノ如ク五日夕ニ至リ杭州市政府ノ態度一變シ一行ヲ外交部ニ送ルニ決シタルハ或ハ前記本官ノ申出ニ依リ外交部ヨリ直ニ再度杭州市長ニ對シ電報シタル結果ナルヤニモ思ハレ尙何應欽ヨリ魯滌平ニ對スル電報モ相當效果アリタルニ非サヤト察セラルル次第ナリ(米内山ノ説明ニ依レハ公使宛往電第一一五號ノ杭州ヨリノ同電ニハ安全ニ上海ニ向フトアリ過去ナリヤ未來ナリヤ判然セサリシカ今ニ至リ向フ筈ナリトノ意ナリシ事判明セリト述ヘタリ)

四、米内山領事ノ談ニ依レハ杭州市長始メ市政府ハ大体領事館ニ對シ終始好意ヲ示シ居タルカ同領事館ヲ封鎖シ引揚げヲ阻止シ居タルハ日本側飛行機ノ飛來爆撃說宣傳セラレタルニ依リ之ヲ避クル爲一種ノ人質トシテ留置キタルニ非サヤトノ事ナリ

配慮アリ度シ

右大臣及本使ヨリモ既ニ電報セル次第アルモ重ネテ申進ス本電宛先滿洲ヲ除ク在支各公館及香港大臣、奉天ヘ轉電セリ

濟南、青島ヨリ各分館ヘ轉電アリタシ

漢口ヨリ宜昌、重慶、成都、鄭州、沙市、長沙ヘ轉電及轉報アリタシ

465

昭和7年2月8日 芳沢外務大臣より  
沢田連盟事務局長  
在米國出淵大使 (宛(電報))

上海事変に伴う長江・華南方面の領事館および居留民の避難・引揚げ状況について

合第四四一號

本省 2月8日後8時50分發

上海事件ニ因ル長江及南支方面領事館及在留民ノ避難引揚げ状況本月七日迄ノ處左ノ通

(一)長江方面

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東、福州ヘ轉電セリ

464

昭和7年2月(7)日 在中國重光公使より  
芳沢外務大臣宛(電報)

陸軍増援の目的につき我が方在中国各公館に通知について

上海 發

本省 2月7日後着

第一二五號

本使發在支各領事(滿洲ヲ除ク)及香港宛電報合第八一號

上海事件ハ七日ノ政府聲明ノ通能フ限り局部的ニ解決スル方針ニシテ今回ノ陸軍増援ノ目的ハ現在開北ニ於テ我カ陸戰隊カ連日優勢ナル支那軍ノ激烈ナル攻撃ヲ受ケ多大ノ犠牲ヲ以テ之ヲ反撃シ居リ租界内ノ人心極度ニ不安ナルニ付支那軍ヲ撤退セシメ此不安ヲ除クニアリ而シテ支那各地ニ衝突事件發生スルカ如キハ我ニ取リ極メテ不利ナル次第ニ付貴官ハ貴地日本側官民カ冷靜自重ノ態度ヲ保ツ様充分御

「上海」一日ヨリ六日迄ニ内地引揚者約四、七〇〇名、大連方面引揚者約二〇〇名アリ萬一ノ場合ニ處スル爲十一日迄ニ一六、〇〇〇名ノ輸送ニ間ニ合フ様船繰ノ用意成レルモ最近在留民ノ動搖稍薄ラキツツアリ(事件前ノ邦人數二五、〇〇〇人)

「杭州」在留民全部(三名)一月廿八日上海ヘ避難シ館員全部六日自動車ニテ南京著邦船ニ收容ス

「蘇州」在留民八〇名一月廿七日上海ヘ避難シ殘留者及館員(計三一名)ハ五日午後鉄道ニテ鎮江ヘ引揚げ七日上海ニ到着

「鎮江」婦女子四名一月廿八日上海ニ避難シ殘留男子一一名ハ二日在泊警備艦ニ收容サレ内三名ハ七日上海ニ引揚ク「南京」在留民及館員全部一月廿九日在泊汽船ニ引揚げ内在留民二四名ハ一日更ニ上海ヘ引揚げ(殘留者領事以下官民合計三二名)

「蕪湖」二月三十日館員及殘留民全部(計二三名)在泊邦船ニテ下航三十一日吳淞ニ到着セシモ偶々交戦中ニテ上海寄港不能ナリシヲ以テ其儘内地ニ向ヒ七日若松著

「九江」婦女子ハ二日全部警備艦ニ男子ハ日清「ハルク」ニ

收容シ乗船ノ都合付キ次第館員ヲ除キ全部(四〇名)漢口へ引揚ノ豫定ナリシモ事態急変ノ模様ナキニ依リ四日婦女子ヲ「ハルク」ニ移ス

「漢口」租界外居住者中婦女子ハ全部租界内へ引揚濟、市中概シテ平靜ナルモ上海事態ノ推移ニ依リ何時急變スルヤ測ラレサルニ付萬一ノ場合ニ備ヘ一日ヨリ日清汽船一隻ニ停船ヲ命ス現在邦人數一、五六〇名、在泊警備艦砲艦一隻驅逐艦四隻、租界周圍ニ鐵條網ヲ張りテ警備中

「長沙」市中平靜ナルモ萬一ヲ慮リ三日避難準備完成現在邦人數六〇名

「沙市」二日、館員居留民全部(三名)宜昌へ

「宜昌」一月廿九日以來婦女子全部(一八名)日清事務所ニ收容中現在邦人數四一名

(二)南支方面

「福州」四日迄二五一五名(大部分婦女子内内地人一六六名他ハ臺灣人)ヲ基隆ニ避難セシム(殘留内地人約一三五名)

「厦門」邦人ノ自重ヲ促スニ止メ未タ引揚ノ手配ヲ爲サス現在内地人數約三七〇名

「汕頭」内地人(約一三五名)中婦女子大部分(約九〇名)八日

ニ依リ日本側ニ他意ナキヲ宣傳セル爲人心次第ニ安定シ五日朝警察長差廻シノ自動車ニテ城内ヲ視察セル館員ノ報告ニ依レハ商店モ大半ハ開店シ市内ノ清況ハ下關ヲ除キ平常ト大差ナキニ至レル趣ナリ

尙領事館及館員留守宅ニハ何等異常ナシ

北平ヨリ大臣へ轉電アリタシ(第一二五號)

支、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

467 昭和7年2月8日 在福州田村總領事より 芳沢外務大臣宛(電報)

### 福州における上海事変の影響について

福州 2月8日前発  
本省 2月8日後着

第五七號

廣東宛貴電第九號ニ關シ

當地ハ目下ノ處表面左迄險惡トハ認メ難キモ南支各地中最モ上海ニ近ク且經濟上緊密ノ關係アルヲ以テ平常反日運動ヲ喜ハサル商人等モ舊年關ニ際シ上海ヘノ土貨賣掛代金同

臺灣へ引揚ノ手配中

「廣東」二月卅一日臺灣ニ對シ船線方依頼スルト共ニ邦人ニ何時ニテモ引揚ケ得ル様準備方勸告シ英租界外居住邦人全部ヲ一日租界内ニ避難セシメ同日婦女子一六名香港ニ引揚ク殘留邦人數約二八〇名

聯盟ヨリ在歐各大使(土ヲ除ク)へ米ヨリ加奈陀、市俄古、紐育、桑港、へ轉電アリタシ

466 昭和7年2月(8)日 在南京上村總領事代理より 芳沢外務大臣宛(電報)

### 南京における中国側民心の安定について

南京 本省 2月8日前着

第一二五號

一日夜ノ事件以來當地市民ハ極度ノ不安ニ襲ハレ浦口、鎮江、杭州方面ニ避難スルモノ陸續トシテ長蛇ヲ爲シ爲ニ杭州街道ニ土匪ノ出沒ヲサヘ見ルニ至リ城内各商店ハ盡ク閉鎖シ人影ヲ認メサル程ナリシカ其後我方ト支那側トノ交渉ノ結果各種ノ人心緩和手段ヲ施シ支那側モ新聞又ハ布告等

收不能ニ陥リ且ツ滿洲ノ場合ト反シ日常最モ緊密ナル取引關係ヲ有スル隣町ニ於ケル戰爭トシテ寧口省内奧地ノ共產土匪ノ襲撃以上ニ關心ヲ有シ省政府所在地トシテ市民一般ニ政治的反映ヲモ受ケ官憲側ニ於テハ相當警戒ニ努メ居リ且反日會解散「ポスター」撤廢以來外面のニハ目立タサルモ上海方面支那軍ノ戰勝ヲ報スル新聞號外其他ニ對シ「日本人ヲ皆殺ニセヨ」ト叫ヒ興奮スルモノアリ通リ掛リノ邦人ニ對シ「日本人ノ泣面ヲ見ヨ」等ト惡罵シ小石ヲ投ケ唾ヲ吐キ掛ケ人力車乗車ヲ妨害スル等人心漸次惡化ノ徴ヲ示シ必スシモ樂觀ヲ許サス今ノ處上海ノ事態ニシテ急激ニ惡化セサル限リ此程度ニテ推移スヘキカト觀測サルモ十一日ヨリ各學校休暇明ケト共ニ相當警戒ヲ要ス内地人婦女子ハ殆ト全部一時台灣ニ避難セルニ付殘餘ノ内地人ハ夜間ハ我海軍警備艦ニ近キ河岸ニアル台灣銀行外一個所ニ集合宿泊シ兵員十五名警戒シ居リ茲兩三日上海方面ヘノ我陸軍派遣ノ影響等ヲ見極メタル上ニテ右集合宿泊ヲ緩和スル豫定ナリ

公使ヨリ上海ニ轉報アリタシ

公使、厦門、汕頭、廣東ニ轉電セリ

468 昭和7年2月(8)日 在中国矢野大使館參事官より  
芳沢外務大臣宛(電報)

雲陽丸の日清汽船ハルク横づけのための前提  
条件を中国側に要求について

北平 発  
本省 2月8日後着

第四〇號

南京發本官宛電報

第二號

大臣へ轉電アリタシ

第一一五號

往電第一〇二號ニ關シ

三日午前外交部ノ代表及王<sup>(瑞)</sup>俊來訪シ雲揚丸ヲ「ハルク」ニ横着トスル件ニ付更ニ我方ノ考慮ヲ求メタルニ依リ本官ハ其前提條件トシテ左記要求ヲ提出セリ

一、浦口駐屯軍ノ撤去(往電第一一三號ノ通り解決)

二、日清「ハルク」前ノ廣場ヲ整理シ少クモ百米突位ハ見透シ得ラルル様スルコト(「ハルク」前ニハ煉瓦、鐵管堆積シ

南京發本官宛電報

第三號

在支公使宛第一一〇號

往電第九九號ニ關シ

一日夜ノ事件ニ關スル二日附外交部宛公使館名儀ノ覺書全文左ノ通り

覺書

南京下關日清「ハルク」警戒中ノ帝國海軍ハ本月一日午後十一時突如不法ニモ中國正規軍ヨリ攻撃セラレ之ト同時ニ獅子山砲臺ヨリ三發ノ砲撃ヲ受ケ重傷者一名及輕傷者一名出スニ至レルヲ以テ帝國海軍ハ自衛上已ムナク之ニ反撃ヲ加ヘタル處中國側ハ間モナク沈黙セルヲ以テ帝國海軍ニ於テモ間モナク反撃ヲ中止シ攻撃ニ依ル損害ヲ最小限度ニ止ムルニ努メタリ

査スルニ日本公使館ニ於テハ最近上海方面ニ於ケル事態ノ惡化ニ鑑ミ在南京帝國領事及館員並ニ在留邦人ヲ全部下關日清「ハルク」ニ避難セシムルト同時ニ在南京帝國領事ヲシテ中國各關係機關ニ對シ累次慎重措置方警告セシメ置キタルニ拘ラス中國側カ突如本件ノ如キ挑戰の手段ニ出テタ

居リ不逞ノ徒ノ屈強ノ隠レ場トナリ居ルニ付撤去ヲ要求シタル次第ナルカ先方ハ之ヲ承諾セリ尙支那側ハ二日以來「ハルク」前ノ通りハ自動車ノ外通行ヲ禁シ巡警及憲兵ヲ多數配置シ嚴重警戒シ居リ本官自ラ見分シタルニ通行人全然ナシ)

三、其他食料品ノ供給、自動車運轉手ノ雇入、領事館其他邦人雇傭ノ中國人ニ對スル特別保護、電信郵便物ノ正確ナル發受ノ保障等

右ニ對シ支那側ハ當方ノ要求ヲ尤モナリトシ談笑裡ニ之ヲ受諾セルニ依リ當方トシテハ先方ノ實行振リヲ見極ムル筈ナリ

大臣、支、青島、濟南、漢口、廣東、天津へ轉電アリタシ

469 昭和7年2月8日 在中国矢野大使館參事官より  
芳沢外務大臣宛(電報)

南京砲撃事件に関する外交部宛電書について

北平 2月8日後発  
本省 2月8日後着

第四三號

ルハ甚タ不都合ト云フヘシ依テ帝國公使館ハ茲ニ不取敢國民政府外交部ニ對シ嚴重抗議ヲ提出スルト共ニ本件ニ關スル帝國政府ノ正當ナル要求ノ權利ヲ保留スルコトヲ聲明ス昭和七年二月二日

在中華民國日本帝國公使館

國民政府外交部御中

支、大臣、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電アリタシ

470 昭和7年2月9日 芳沢外務大臣より  
在漢口坂根總領事、在福州田村總領事、在青島川越(茂)總領事、在天津桑島總領事宛(電報)

上海事変に伴う中国各地居留民の妄動取締り

方訓令

本省 2月9日発

合第四六〇號  
在支公使發在支各領事及香港宛電報合第八一號ニ關シ  
今同上海方面ニ於ケル兵力ノ使用ハ頑冥ニシテ統制無キ支那軍隊ノ挑戰ニ依リ餘儀無クセラレタルモノニシテ陸兵派

遣ノ目的モ冒頭在支公使電報ノ通ナリ而シテ上海事件ニ關スル帝國ノ態度ハ往電合第一六七號及合第四二四號政府聲明ニ依リ自ラ明カニシテ政府トシテハ之レ以上事態ノ擴大ヲ欲セサルハ勿論滿洲問題解決ニ關スル考慮上他地方ニ於ケル類似事件ノ發生ハ極力之ヲ避ケタキ意向ナリ然ルニ從來ノ實例ニ鑑ミ各地在留邦人中一部不心得ノ分子ノ間ニハ上海方面ニ對スル兵力ノ使用及増勢殊ニ陸兵ノ派遣ヲ見テ他地方ニ於テモ事短<sup>(端カ)</sup>起ラハ同様直チニ兵力ノ派遣ヲ得ヘキモノト盲斷シ出兵又ハ實力行使ノ機會ヲ作ラントスル危險ナル策動ヲナス者アルヘキコト想像ニ難カラサル處若シ是等分子ノ輕舉妄動ヨリ他地方ニ於テ我ヨリ求メテ事端ヲ起スコトアリテハ事態ノ紛糾遂ニ停止スル所ヲ知ラス滿洲トハ異リ列國ノ利害關係隨處ニ錯綜シ居ル土地柄自然外國トノ重大ナル紛爭ニ捲キ込マルル虞モ多カルヘク滿洲問題善後策ニ專ラ力ヲ注カサルヘカラサル今日斯クテハ我方トシテモ殆ント奔命ニ疲ルルニ至ルヘキノミナラス我對支方針ニ關スル列國ノ疑惑モ遂ニ解クヘカラサルモノトナリ國際信用ヲ全ク失墜シ延イテハ滿洲問題ニモ由タシキ影響ヲ及ホスヘシ就テハ貴地居留民中此種分子ノ策動ニ就テハ十二

分ノ注意ヲ拂ハルルト共ニ其ノ不軌ヲ企ツルモノアラハ斷乎トシテ制壓ヲ加ヘラレ度他方支那現下ノ内情ヲ通觀スルニ中央政府ノ根底動搖シテ威令殆ント行ハレス地方ニ對スル政費及軍費ノ送付モ不充分ナル爲各地軍閥モ自然自給自足ノ方針ニ依リ其ノ地盤ノ保持ニ專念シ其ノ保身ノ爲ニハ銳意其ノ勢圍内ノ安定ヲ計リ特ニ外國側ト事ヲ釀ササルコトニ極力配慮シ居ル様看取セラルル次第第二モアリ此ノ際右情勢ヲ利用シ是等地方實權者トハ一層密接ナル連絡ヲ執リ之ヲ鞭撻督勵シテ支那側民衆ノ動搖防止並ニ不穩分子ノ挑發的行動取締方ニ全力ヲ盡サシムル様誘導セラレ前記邦人ニ對スル取締ト相俟テ此上貴地方ニ不祥事端ノ發生ヲ見サル様此ノ際特ニ一層ノ努力ヲ拂ハレタシ

漢口ヨリ訓令トシテ長沙、九江、宜昌、沙市ニ轉電アリ度  
青島ヨリ訓令トシテ各出張所及濟南芝罘ニ轉電又ハ電報<sup>(轉)</sup>アリ度

福州ヨリ訓令トシテ廈門、汕頭、廣東ニ轉電アリ度

天津ヨリ訓令トシテ北平ニ轉電アリ度

在支公使、上海、南京ニ轉電セリ

~~~~~

471 昭和7年2月9日 在漢口坂根總領事より
芳沢外務大臣宛(電報)

日本租界境界線の鉄条網敷設に関する中国側

抗議の不当を省政府に申入れについて

付記 二月五日付在本邦江中国臨時代理公使より芳

沢外務大臣宛公信申字第四三号

右中国側抗議

漢口 2月9日前発
本省 2月9日後着

第八九號

本官發支宛電報第二〇號

南京發外務大臣宛電報第一一八號末段ニ關シ
日本租界境界線ノ鐵條網ニ付テハ支那側官憲ニ於テモ事情ヲ諒解シ居ル次第ナルノミナラス當地ニ於テ一片ノ正式抗議ヲモ爲サス突然中央ノ問題トスル如キハ甚タ面白カラサル遣口ナリト何成濬ニ傳ヘシメタル處先方ヨリ右抗議ノ事ハ省政府乃至警備司令部ノ全然承知セサル所ニシテ惟フニ公安局長王世鑒カ黨部委員タル關係上黨部側ヨリ中央ニ上申セシモノナルヘク何レニセヨ早速取調ノ上將來對日事項

ハ一切何綏靖公處主任ニ經伺セサレハ處理スヘカラサル旨嚴命方取計フヘシト返事シ越セルニ付夫レ其ノ通幹部ノ意嚮カ徹底シ居ラサル様ニテハ將來ヲ憂慮セラルルニ依リ本件ノ如キ失態ヲ繰返ササル様間違無ク措置セラレ度キ旨嚴重注意シ置ケリ
冒頭電報ノ通轉電セリ

(付記)

申字第四三號

爲照會事項奉外交部電開據湖北省政府本月二日電稱在漢日人越界建築防禦工事日海軍亦越界堆置沙袋及設置電網妨碍交通經商請駐在漢口日本領事制止准復稱事關海軍權限未便干涉等情除已照會駐華日本公使迅予制止外仰知照日本政府請其嚴予制止各等因相應照會

貴大臣查照即請迅予嚴電制止以免釀成意外竝希見復爲荷須至照會者

右照會

日本帝國外務大臣芳澤謙吉閣下

中華民國臨時代理公使 江華本

中華民國二十一年二月五日

申寫第四三號 假譯

以書翰致啓上候陳者今般外交部ヨリ電報ヲ以テ「湖北省政府ノ本月二日電報申越ニ依レハ、漢口ニ於テ日本人越界シ防禦工事ヲ築キ日本海軍亦越界シ土曩^(兼)ヲ堆積シ電網ヲ施設シ交通ヲ妨害シタルヲ以テ在漢口日本領事ニ之カ制止方方申入レタル處、右ハ事軍ノ權限ニ關スルヲ以テ干涉スルニ便ナラサル旨ノ回答アリタル趣ナリシニ依リ在華日本公使ニ對シ既ニ速カニ之カ制止方照會シ置キタルモ一方日本政府ニ對シ嚴重之ヲ制止セラルル樣照會セラレ度シ」トノ旨申越アリタルニ付テハ貴大臣ニ於カレテハ右御了承ノ上速カニ電報ヲ次^(以カ)テ嚴重制止セラレ意外ノ事件釀成ヲ免ルル樣御取計相成度旁々何分ノ儀御回答相煩度此段照會得貴意候

敬具

中華民國二十一年二月五日

中華民國臨時代理公使 江華本

日本帝國外務大臣 芳澤 謙吉閣下

外務省巡查 皆川 雅雄

右兩名ハ二月三日夕刻蘇州在留官民引揚ノ爲同地ニ急行ヲ命セラレ憲兵司令トノ打合せニ基キ同日午後十時南京發ノ豫定ニテ同司令部ヨリ派遣セラレ同行スルコトニナリタル憲兵司令部高級副官徐藩氏ト三日午後九時日清「ハルク」ニ落合ヒタル處生憎右夜行列車ハ出發中止トナリタル事判明シタルト他方軍艦接受ノ上海某方面放送ノ「ラヂオ」ニ依リ蘇州在留邦人四名ハ二日慘殺セラレタル趣傳ヘラレ同地方事態ノ急迫セルコトヲ豫想セラレタルヲ以テ直ニ徐副官ニ對シ憲兵司令部ヨリ長距離電話ヲ以テ蘇州在留邦人慘殺ノ眞否調査方ヲ依頼シ其ノ返報ヲ俟ツテ翌四日午前出發スルコトニ打合せヲ遂ケ一旦雲陽丸ニ引返セリ。次テ翌四日早朝憲兵司令部ヨリノ回報ニ依リ蘇州邦人ノ慘殺說ハ事實無根ナルコト判明シタルヲ以テ直ニ前夜ノ打合せ通り四日午前十時徐副官並ニ護衛憲兵四名ト共ニ日清「ハルク」ヲ出テ下關驛ニ至リ蘇州ニ向ケ出發セリ。

現在滬寧鐵路ハ運行全ク不確實ニテ一日約三回南京、南翔間ヲ往復シ居レルモ運轉時間モ平常ノ三倍近クヲ要シ居ル有様ニテ前進意ノ如クナラス又車中飲食物ノ供給ナキハ勿

472 昭和7年2月9日 在南京上村總領事代理より 芳沢外務大臣宛

蘇州在留民引揚げに関する柳原書記生などの報告送付について

普通第七八號

(2月23日接受)

昭和七年二月九日

在南京

領事 上村 伸一(印)

外務大臣 芳澤 謙吉殿

蘇州在留官民引揚ニ關スル件

蘇州在留官民引揚ノ爲四日同地ニ派遣シタル當館柳原書記生及皆川巡查ハ已報ノ通り六日朝無事歸還シタルニ付右ニ關スル兩人ノ報告御參考迄別添送付ス

本信寫送付先 公使 上海 北平 奉天

(別添)

蘇州在留官民引揚ノ爲蘇州出張報告書

在南京領事館

外務書記生 柳原 敏一

論暖房ノ設備モナク加フルニ寒氣甚シク頗ル困難ヲ感シタルカ途中各驛ハ全ク非常時ノ狀態ニシテ南京駐屯ノ第八十七、八十八師(舊警衛軍)ヲ滿載セル軍用列車ハ續々南下シツツアル爲萬一ノ危險ヲ慮リ小職等ノ乗込ノ車輛ハ注意ヲ惹カサル樣兩側ノ窓ハ鎧戸ヲ下シ兩側入口ニハ衛兵ヲ附シテ嚴重乘客並ニ兵士ノ出入ヲ禁シ一車借切りノ儘ニテ警戒セラレタリ尙滬寧線ハ上海ノ事變ト南京ノ砲擊事件(二月一日夜)トニ依リ兩地向ノ乘客全ク杜絶シ僅ニ兩地ヨリノ避難民カ鎮江經由運河ニテ楊州^(揚カ)以北ニ赴クモノ少數アル以外沿線一帶寂寥ヲ極メ居レリ。

斯クテ小職等ハ途中十數時間ヲ要シ五日午前一時半漸ク蘇州驛ニ到着(平常ハ南京蘇州間六時間)馬車ニテ領事館ニ向ヒタルカ同地ハ戒嚴令下ニ在リ深夜ノ通行ノコトトテ幾度カ誰何停止ヲ受ケタルモ憲兵ノ保護アリタルヲ以テ幸ヒ事ナキヲ得同夜二時半無事領事館ニ到着セリ。

一方蘇州領事館ニ於テハ川南領事始メ居留民一同ハ遲着ヲ氣遣ヒ居ラレタル處無事着セルヲ以テ小職等ハ一同ノ歡喜ニ迎ヘラレタルト共ニ相共ニ其ノ無事ヲ祝シ感慨無量ナリキ。然ルニ蘇州方面ニ於テハ毎日蘇州河ニ依リ上海方面ヨ

リノ避難民殺到シ人心日ニ險惡ニ向ヒツツアル模様ナル爲引揚ニ際シ若シ是等避難民等ニ知悉セラレタル場合如何ナル事故發生スルヤモ計リ難ク旁々引揚ニ付テハ支那人ノ注意ヲ惹カサル様乗車スルコトヲ適當ト認メ徐副官トモ協議ノ上大体五日夜行ニテ出發スル事ニ豫定シ置キタリ。然ル處引揚未了ノ際早クモ四日夜ニ於テハ日本ヨリノ「ラヂオ」ニ依リ蘇州在留官民一同ハ同日已ニ南京ニ無事引揚タル旨放送セラレタルヲ以テ在留民ハ之カ爲邦人ノ引揚ニ關シ支那側官民ヲシテ無用ノ注意ヲ喚起セシメタルヲ遺憾トシ引揚ノ前途ヲ懸念シ居タルニ更ニ五日朝ニ至リ支那人ノ最モ恐怖シ居ル飛行機一臺蘇州上空ニ現ハレ其ノ行動頗ル機敏巧妙ナリシヲ以テ右ハ日本側ノ偵察機ナリト一般ニ信セラレ在留民ノ不安益々加ハリ引揚カ果シテ圓滿ニ出來ルヤ否ヤニ付一同憂慮スルニ至レリ。是ヨリ先蘇州到着ト同時ニ徐副官ニ對シテ歸寧列車ノ出發時間ノ決定並ニ引揚官民ノ乗車迄ノ沿道及驛附近ノ警戒保護方ニ付在蘇州憲兵團長（第一及第三團）及蘇州驛長等ト打合方ヲ依頼シ前述ノ通り大体五日午後六時頃出發豫定ノ夜行列車ニ乗込ム事ニ打合セ置キタル處同日正午頃ニ至リ右夜行列車運行判然セサル

爲寒氣甚シク且ツ車内食堂モナカリシ爲一行ハ豫メ用意シ來レル冷キ握飯ニ飢ヲ凌キツツ一路鎮江ニ向ヒタルカ事變ニ依リ引揚者ノ困苦ハ實ニ當事者ナラテハ味ヒ得サルモノアルヲ思ハシム。汽車ハ漸ク五日午後十一時半無事鎮江ニ到着シタルカ蘇州出發前豫メ川南領事ヨリ上村南京領事宛鎮江着後ノ手配方依頼シアリタル爲驛頭ニハ鎮江出張中ノ南京領事館寺西巡查、鎮江碇泊驅逐艦望月ノ通譯及同地公安局巡警約二十名ノ出迎ヲ受ケ蘇州引揚官民三十一名ハ茲ニテ下車沿道巡警ノ保護ニテ無事驅逐艦望月ニ收容セラレ翌日下江ノ豫定ナリシ太古洋行汽船潘陽號ニテ上海ニ向フ事トナリタリ。次ニ小職等二名ハ其ノ儘鎮江ニ下車ノ豫定ナリシカ特ニ徐副官ノ計ヒニテ特ニ一車ノミヲ其儘南京ニ護送スル事ニ驛長ノ承諾ヲ得蘇州ヨリ乗組ミタル憲兵一小隊ト共ニ軍用列車トシテ南京ニ向ケ出發シ六日午前四時南京着夜明ケヲ待つテ無事雲陽丸ニ歸還セリ。

(以上)

473

昭和7年2月(11)日

在中国矢野大使館參事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

趣ナリシヲ以テ若シ此ノ際一日ニテモ出發ヲ遅延セシムルコトハ益々引揚ノ困難ヲ加フル虞アリ且又近々帝國陸軍ノ上海出動説モアリ其實現ノ際ニ於ケル支那軍民ノ動搖等ヲ顧慮シ一刻モ早ク引揚ヲ完了スルヲ得策ト思考シタルヲ以テ適々同日午后三時鎮江迄ノ列車アルコト判明セルニ付早速川南領事ト相談ノ上兎ニ角鎮江迄同列車ニ乗込ム事ニ決定シ其ノ手配方徐副官ニ依頼シタルカ川南領事ヨリモ勿論縣長、公安局長ニ對シ豫テノ諒解ニ基キ萬事引揚保護ノ手配ヲ打合セラレタリ。茲ニ於テ在留邦人、館員一同至急用意ヲ整ヘ陸路ニ依ル危險ヲ慮リ豫テ領事館ニテ用意シアリタル曳船ニ乗込ミ公安局差廻シノ巡警護衛ノ下ニ水路蘇州驛ニ向ヒ驛前ニ於テハ支那群衆接近シ來レル爲特ニ豫メ手配シアリシ武装巡警並ニ憲兵各一小隊ノ保護ニ依リ引揚民一行ノ携帶品ノ積込並ニ一行ノ乗車ヲ完了シ借切り車輛ノ鎧戸ヲ下シ兩側入口ニ憲兵一小隊約二十五名ヲ乗込マシメ其嚴重警戒ノ下ニ午後三時過無事鎮江ニ向ケ出發シタルカ驛頭ニハ吳縣縣長、憲兵第三團副團長、公安局長代理等來着シ川南領事等ヲ見送リタルハ時局柄特ニ注意ヲ惹ケリ。車中ハ固ヨリ「ステーム」ノ設備モナク三日以來ノ降雪ノ

上海事変に伴う邦人の越軌行動取締りのため

警察官の増員方要請について

北平

発

本省 2月11日前着

第七七號

貴電第二一號ニ關シ(部外絶對極秘)

當地方狀況ハ累次報告ノ通表面平靜ナルモ事變以來商取引全然杜絶シ在留邦人中生活ニ窮スル者モ相當アル模様ニテ從テ彼ニ多少ノ資金ニテモ給スルモノアランカ直ニ其ノ指圖ニ從ヒ越軌ノ行動ニモ出テ兼ネマシキ傾向アリ現ニ支那新聞ノ不敬記事問題等ヲ種トシテ居留民大會ノ開催ヲ唱道シ當館取締ノ結果目的ヲ達セサルヤ居留民有志等ノ名義ニテ會合ヲ催シ更ニ民會ノ有力者ニ居留民大會ノ開催ヲ迫ル等ノ事アリ其ノ他集合ノ目的奈邊ニアリヤ明カナラサル會合開催催セラレタルカ最近青島ヨリ二(一)名ノ國粹會員(青島宛往電第二號)來平後ハ其ノ空氣一段ト險惡トナレル模様ナリ坊間傳フル處ニ依レハ此レ等所謂青年團ハ日本俱樂部同仁病院等日本側建物ノ焼打ヲ計畫シ居ルヤノ趣ニテ右ハ必スシモ信シ難キモ彼等ハ學良膝下ニ於テ何等カ事端